

小高区まちづくりプラン

2026年3月



小高では、震災後のまちの状況を踏まえ、住民が主体となって未来の小高を描く場をつくるため、ワークショップを開催しました。

震災以降の「小高」

帰還は進んでいるが人口はまだ少ない
生活インフラの不足に対する不安（買い物、医療など）
若い世代の定着や新しいコミュニティづくりが課題



まちの復興・再生には **“地域住民の力”** が必要

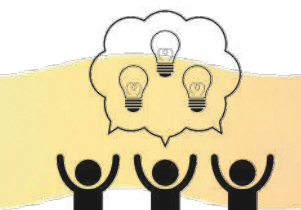
住民が主体となって、未来の小高を描く場をつくるための
ワークショップを開催

R 6 年度



イメージづくり

R 7 年度



イメージの具体化



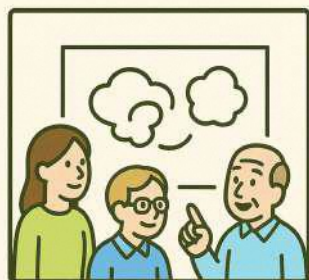
まちづくりプラン

南相馬市に
提言

ワークショップは2カ年をかけ、1年目は「イメージづくり」、その結果を受け、2年目は「イメージの具体化」を行いました。

1年目（R6年度）

（イメージづくり）



小高の**将来のまちづくりへの思い**や**課題**などについて、ざっくばらんな**意見・アイデア**出し

* 将来は概ね10年後を想定

こうだったらいいなあ

〈ワークショップの概要〉

	第1回	第2回	第3回
日時	10月26日	12月22日	3月8日
場所	浮舟文化会館	小高交流センター	小高交流センター
参加者数	36名	38名	34名
主なテーマ	<ul style="list-style-type: none"> • まちあるき • ポテンシャル等のグループワーク 	<ul style="list-style-type: none"> • まちあるき • コンセプト等のグループワーク 	<ul style="list-style-type: none"> • 将来イメージ（案）の確認

2年目（R7年度）

（イメージの具体化）



深掘りテーマを設定し、**各テーマの具体化（実現に向けた方策の検討）**

* 1年目のWsの結果を踏まえ、深掘りテーマを設定

いいなをどうやって実現する？

〈ワークショップの概要〉

	第1回	第2回	第3回
日時	7月13日	9月21日	11月27日
場所	小高交流センター	浮舟文化会館	小高交流センター
参加者数	30名	21名	20名
主なテーマ	<ul style="list-style-type: none"> • 「まちなかエリア」の深掘りテーマの具体化 	<ul style="list-style-type: none"> • 「エリア共通」の深掘りテーマの具体化 	<ul style="list-style-type: none"> • 短期的に取り組むプロジェクトの具体化

V I S I O N （ 構 想 ）

ワークショップで出された多様な意見を出発点に、それらを“思いの方向（コンセプト）”として検討し、“取り組みの方向（基本方針）”へと発展させながら、将来のまちの姿（将来構想図）を描いています。

これからの小高のまちづくりを考えるにあたり、このまちがもつ魅力や特徴を改めて見つめ直しました。

歴史・自然・地形



小高神社

鎌倉時代末期から江戸時代に中村（現相馬市）に移るまでの約 280 年間、奥州相馬氏の拠点であった城。相馬野馬追の最終日、野馬懸が行われる。



駅前通り

小高駅から西にまっすぐ伸びる通り。大正末期から昭和初年の駅前商店街には様々な商店が立ち並んでいた。「おだか浮舟まつり」時は歩行者天国になる。



小高川の桜並木



海岸



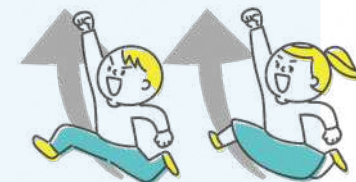
田園風景



大悲山の石仏

民による取り組み

小高は、江戸時代から相馬中村藩の城下町と南北交通の要衝として栄え、商人や職人が多く暮らすまちでした。江戸時代の終わりごろ、半谷清寿が「相馬織物会社」を小高に設立し、「軽目羽二重」の産地として知られました。こうした「自分の技や商いで生きる」文化は今の時代に合った形で受け継がれ、地元出身者や移住者が自らの手で地域の未来を切り拓く動きへとつながっています。



こうした小高の特徴を踏まえながら、これからどんなまちを目指していくのかについて、参加者の皆さんと意見を交わしました。

小高をどんなまちにしたいか、「こうなったらいいな」をみんなで話し合いました。

賑わいをつくりたい まちを活気づけたい

交流拠点として
大人も遊べる場があるといいな

駅前通りの街並みを
活かした賑わいづくり

若い世代が集える・
チャレンジできる場をしたい



人と人とのつながりを深めたい 人との関わり合いを増やしたい

居住者同士が繋がる
きっかけがあるといいな

話しをしながら買い物が
できる町に

近所の高齢者も進んで
子育てを手伝える雰囲気を



自然と調和し、 新たな価値をつくりたい

自然、景観を大事にした
まちづくりを

公園や散歩路沿いに
ベンチがあるといいな

小高川沿いをランニングや
ウォーキングしてみたい

WSで出された
ご意見の一部

安心・安全で暮らし やすいまちになってほしい

楽しく歩ける
道路にしてほしい

子育て環境を
充実させてほしいな

空き地の草刈りをして
景観を美しくしたい

小高の魅力（歴史・文化等） を継承したい

歴史、文化ツアーが
実施できたらいいな

浦尻貝塚の公園が
もっと活用できるといいな

お祭りを復活したり、
若者に継承していく

持続可能な産業をつくり 地域経済を発展させたい

ドローン、ロケット等の
新しい産業を誘致してほしい

農業の六次化が
展開されるといいな

空き地をお試して
利用してみたいな



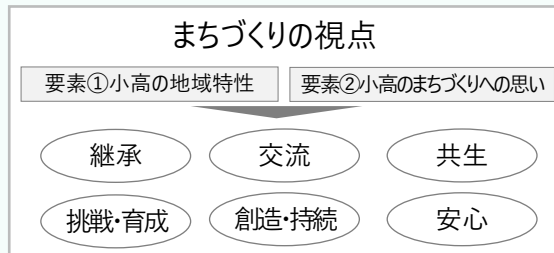
この「住民の思い」をもとに、「小高がどんなまちを目指すのか」を考えていくため、コンセプトの検討を進めました。

小高には、さまざまな立場や思いをもつ人々が暮らしており、その多様性こそがこのまちの大きな魅力です。ワークショップでも、さまざまな視点からたくさんの意見が出ました。だからこそ、一つの「コンセプト」にまとめるのではなく、皆さんの思いを大切にしながら、「小高らしい姿」を少しずつ形にしていく、という整理をさせていただきました。ここでは、その話し合いのプロセスを振り返ります。

〈R6年度〉

第3回WS

WSでの「小高の地域特性」と「小高のまちづくりへの思い」を掛け合わせ、まちづくりの視点を抽出し、キャッチコピー化



歴史を紡ぎ、共に生き、
未来を創る小高
～つなぐ想い いどむ未来～

〈R7年度〉

第1回WS

方向性が異なる3つのコンセプト案を提示

案①：都会的なまち

便利さと安心がそろった「暮らしやすい小さな都市」。身近な場所に必要なものがあり、世代を問わず快適に暮らすことができる。

案②：個が輝く、自己実現のまち

一人ひとりが活躍できる自己実現のまち。人のつながりを大切にしながら、住民の挑戦を応援する。

案③：歴史と自然に包まれた、落ち着いたまち

野馬追や神社、海や山など、「小高ならではの風景と文化を未来へつなぐ」まち。歴史や自然に包まれた穏やかな暮らしを大切にする。

〈R7年度〉

第2回WS

大きなまちづくりの方向性をキャッチコピー化し、前回示した3つのコンセプト案は「まちづくりの要素」として入れ込み、全体をひとつのコンセプトとする

コンセプト（案）

上記の通り、コンセプトはこちらが確定したものではありません。

心地よく暮らせて、
自分らしく関われるまち 小高

〈まちづくりの要素〉

- ・ 暮らしに必要な機能が近くでそろい、誰もが安心して暮らせるまち
- ・ 一人ひとりの「やってみたい」を大切に、地域で育てる・応援するまち
- ・ 自然と歴史に寄り添いながら、心穏やかに暮らし、未来へつなぐまち

このような流れで意見を重ねていく中で、参加者それぞれが感じる「小高らしさ」や「これからの小高への思い」が数多く語られました。

ここでは、ワークショップで実際に出された意見の一部を紹介します。
多様な視点や感じ方が、今後のまちづくりを考えるうえでの大切な手がかりとなります。



〈ご意見の一部〉

〈R6年度〉 第3回WS

- これまでの小高の歴史や未来の小高のイメージが感じられ、いいと思う。
- 小高の空気感や小高の文化が重要なキーワード。また、自分たちが主体となりまちづくりを進めていくイメージがあるとよい。
- 小高の花である紅梅、馬、学びの文化も重要。小高らしさ、個性を活かし、歴史と時代をマッチングさせる。
- 今回のコンセプトはどの町でも当てはまる。小高らしさを出してもよいのではないか。

〈R7年度〉 第1回WS

- 方向①、②、③どれも大事であり、一つに絞る必要はないと考える。
- 小高には、大悲山の石仏や桜、小高神社等の名所がたくさんある。これらを傳承しつつ、住みよいまちに。
- 小高は元々、自然や歴史が溢れ、都会的なイメージはない。便利さは大切であるが、②の自己実現できるまちが良い。これまで小高で暮らしてきた方と、新しく来た方が垣根無く、ちょうどよい距離感を持てるまちに。②と③を合体させた形がよいのでは。

〈R7年度〉 第2回WS

- コンセプト案は素晴らしい。若い人でチャレンジされている方が多く、歴史に思い入れがある方も多いため、これらの状況が示せるとよい。
- 方向①・②・③を融合した考え方はよい。「自分らしく」のキーワードはよい。「自然と歴史に寄り添う」をキャッチコピーに入れると網羅的になる。
- 「関われる」の言葉は受動的で小高らしくない印象。関わってもらうことを前提とするのではなく、「応援」や「育てる」等の主体的な表現がよい。

WSでの話し合いやコンセプトの検討で出てきた考えをもとに、そこから一歩進んで、次の「基本方針」では、その思いをどのように日々の取組や地域の動きにつなげていくか—“取り組みの方向”として整理しました。

コンセプトの検討を通して見えてきたのは、「小高らしさ」を活かしながら、暮らし・子育て・にぎわい・つながりなど、さまざまな分野でまちを育てていくことの大切さでした。ここでは、その思いをどう実際の行動や取組につなげていくか—小高の未来に向けた“取組みの方向”をまとめています。

基本方針

歴史文化や通り等による地域の魅力づくり

— 歴史を未来へ、地域の誇りを紡ぐ

相馬氏の歴史や相馬野馬追などの伝統を受け継ぎ、歴史的な通りや建物を活かした、文化と景観の魅力が息づくまちづくりを進めます。

交流・コミュニティ形成

— 人と人がつながる、温もりのあるまちへ

農民と武士が共存してきた小高の文化を活かし、多様な人々がつながり支え合える関係を育み、交流の場や仕組みづくりを進めます。

自然と共生するまちづくり

— 自然の恵みと暮らす、持続可能なまちへ

海・里山・田園が共存する小高の自然を活かし、環境と暮らしが調和した持続可能な仕組みを育み、自然と人が共に生きるまちづくりを進めます。

子育て環境と新しい挑戦の充実・支援

— 未来を担う力を育み、新たな挑戦を応援

子育てしやすい環境を整えるとともに、新しいことに挑戦できる場を広げ、こどもから大人までが自分らしく活躍できるまちづくりを進めます。

産業振興と地域経済の発展

— 地域の力を活かし、新たな産業を育む

農業・観光・商業などの地域資源を活かした産業を育てつつ、事業者支援や新たな産業の創出を進めます。

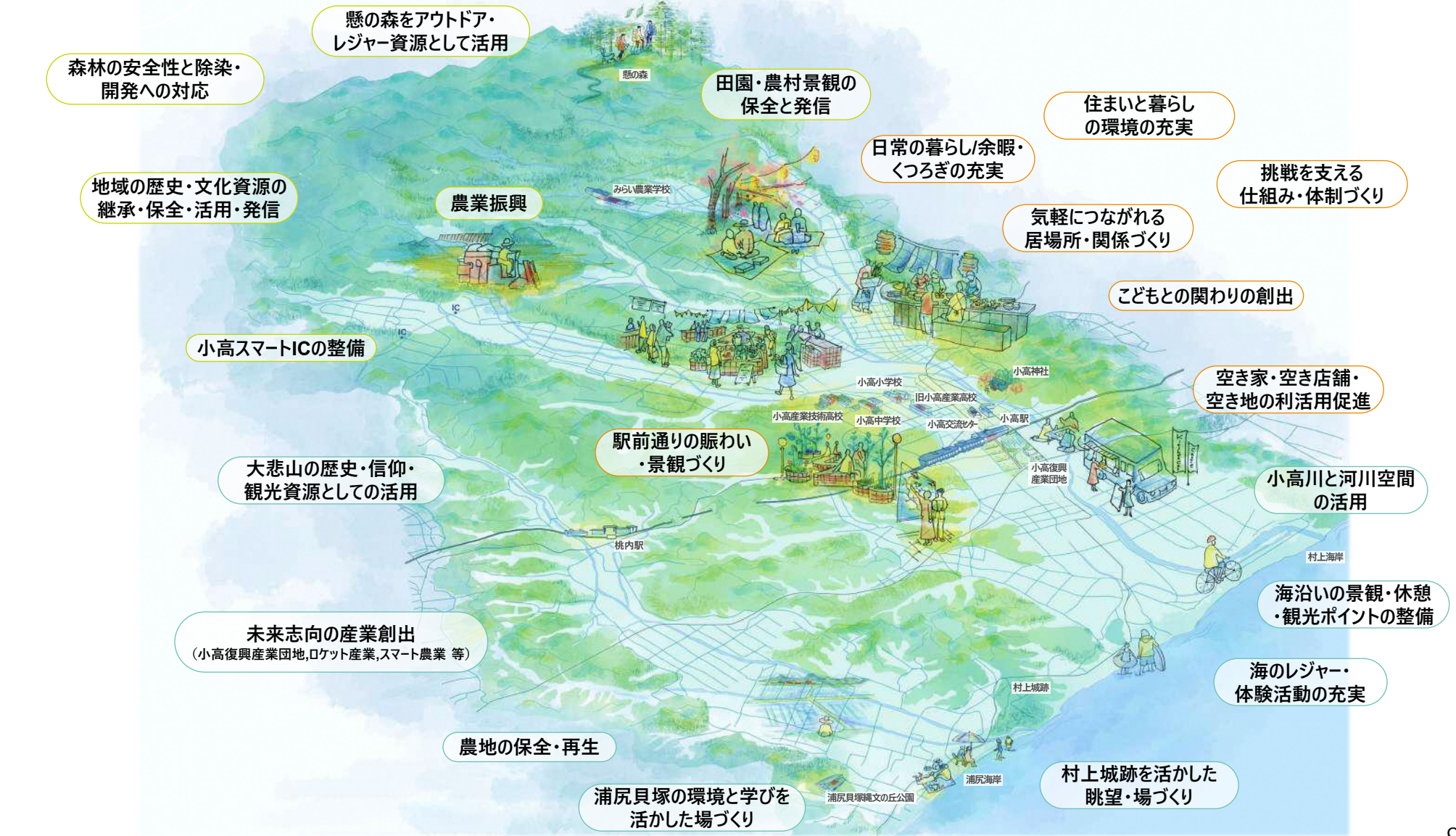
生活環境とインフラの充実

— 暮らしやすく、ずっと住みたいまちへ

交通や買い物の利便性の向上、防災・医療・福祉を充実させ、暮らしやすく、ずっと住みたいと思えるまちづくりを進めます。

これらの方針に沿って取組を進めていくことで、少しずつ形になっていく小高の将来像が、次の「将来構想図」です。 8

基本方針を進めた先に見えてくる、小高のまちの姿です。みんなで少しずつ近づいていく未来を描いています。



P L A N （テーマ別の取り組み）

「VISION（構想）」を踏まえ、WS参加者が興味を持ったポイント等をもとに、さらに深めたいテーマを「深掘りテーマ」として整理し、具体的な内容としてまとめています。

VISION（構想）を踏まえ、WS参加者の興味・関心に基づくものや、実現可能性や検討の余地があるもの等を「深掘りテーマ」として設定し、各テーマの具体化（実現方策の検討）を行いました。

まちなか エリア

（4テーマ）

- 【A】駅からまちへ、歩いて楽しい場所にするには、どうしたらいいか考えよう
- 【B】使われていない場所をまちの資源として活かすには、どうしたらいいか考えよう
- 【C】小高の買い物・食事・楽しめるところをもっと充実させるには、どうしたらいいか考えよう
- 【D】子どもたちの学びと地域がつながる場をつくるには、どうしたらいいか考えよう

エリア 共通

（5テーマ）

- 【A】安心して歩き、楽しくめぐれる空間をどうつくるか考えよう
- 【B】みんなが気軽につながれる居場所と関係性づくりを考えよう
- 【C】小高の歴史・文化を残し、活かすにはどうすればいいか考えよう
- 【D】小高での住まいと暮らしをより安心・快適にするにはどうすればいいか考えよう
- 【E】小高での挑戦を支える仕組みや協働のあり方を考えよう

山・海 エリア

「将来構想図」参照

3 章

「まちなかエリア」の深堀テーマで参加者から頂いたご意見

まちなか

【A】駅からまちへ、歩いて楽しい場所にするには、どうしたらいいか考えよう

詳細は付録の【まちなかエリア】を参照

* とりまとめ資料の一部を記載

地域住民

事業者・団体

行政

外部

官民連携

駅前通り
の賑わい



イベントや仕掛けによる賑わいづくり

地域の魅力を伝える案内人・体験ガイドとしての住民参画

キッチンカー出店やミニマルシェ等の企画運営、既存イベントの継続化

イベント開催の広報支援、助成制度

高校生がつくる空き地等での“まちなかたまり場”の企画

官民連携による賑わいイベント運営推進
(例：歩行者天国・定期市等)



歩きたくなる・立ち寄りたくなる通りづくり

通りの美化・緑化活動への参加

店頭で地域情報や歴史・観光案内の掲示

駅前・通りの整備 (ベンチ、街路樹、遊具や憩いの広場、日差し・寒さ対策など)

通りのデザイン・動線計画などの専門的助言

駅前通りでの店舗付き住宅の推進



日常のにぎわいを生む店舗・仕組みづくり

地元のお店を利用、地域商店のおすすめ情報の発信 (口コミ・SNS・掲示板)

買い物ポイント制度の運営

ポイント制度や買い物支援制度の仕組みづくり

地域外企業 (スーパー、日用品等) の出張販売

仮設イベントや短期滞在空間の官民実証

駅前通り
の景観



まちの景観と調和のある環境づくり

自主的な清掃活動 (草刈り・ゴミ拾い等)

商店街として統一した外観づくりへの協力

景観に関するルールづくり (条例、協定等)

専門家による景観デザインの提案・技術支援

草刈りや美化活動を定期的に行う仕組みの整備



歩きたくなる通り・ルートづくり (ウォーカブル化)

季節イベントや食べ歩き企画への住民参加

まちあるき (散策) マップの更新・作成

無電柱化、歩道整備、サイン整備など

専門家や学生と連携した通り空間の調査

ウォーカブル (歩いて楽しいまち) 空間の社会実験



通りの魅力向上に向けた仕掛け・動機付け

地域の魅力を伝える案内人・体験ガイドとしての住民参画

歩きながら立ち寄れるサービス提供 (食べ歩き、休憩可能スペースなど)

歴史資源を活かした回遊・にぎわいの創出

地域外企業による、イベントやキャンペーンの協力・企画

まち歩きを楽しむ導線や仕組みづくり (イベント連動、ポイント制度など)

3 章

「まちなかエリア」の深堀テーマで参加者から頂いたご意見

まちなか

【B】使われていない場所をまちの資源として活かすには、どうしたらいいか考えよう

詳細は付録の【まちなかエリア】を参照

*とりまとめ資料の一部を記載

地域住民

事業者・団体

行政

外部

官民連携

空き家・空き店舗・空き地の活用

交流拠点の形成と
遊休資源の
連携活用

テーマ性ある空間づくり
への協力
(例：クラフト展示等)

事業者の連携による、
小高交流センターを核
としたエリア型拠点
ネットワークの形成

空き家・空き地・空き
店舗の活用実態調査
とマッチング支援（ミラ
イエとの連携強化）

空き地・空き家を利用
した非日常的体験の
提供（ドローン、アウト
ドア等）

複数主体が連携する
プラットフォームの運営
（協働する会議体の
設置・運営支援）

誰もが使える“居場所”・
“仮の使い方”に
よる空間の活用

空き家・店舗の「定休
日活用」や「時間貸し」

多様な主体による暫
定活用・試行的利
活用（例：週替わり出
店、ミニマーケット等）

空き地の仮設利用
支援制度の整備

学生・アーティストの滞
在制作

地域資源の魅力発
信・記録継承（例：
かつての施設へのプレ
ートの設置等）

チャレンジ・定住・商業
など継続的な利活用
の仕組みづくり

空き家を共同での“仮の
拠点”として活用
(例：サロン、食事会等)

空き家を活かした短期
宿泊やシェアハウスの
運営

チャレンジしやすい環
境づくり（チャレンジショ
ップ、ボックスショップ、戸建
て借家の改修支援等）

外部企業や専門家と
連携し、収益性のある
事業モデルの構築・展
開

民間知見の活用によ
る空間活用モデルの社
会実装



駅前通りの賑わいや景観のイメージ



駅前が来訪者で賑わうイメージ



空き地や空き家が活用され賑わうイメージ

3 章

「まちなかエリア」の深堀テーマで参加者から頂いたご意見

まちなか

【C】小高の買い物・食事・楽しめるところをもっと充実させるには、どうしたらいいか考えよう

詳細は付録の【まちなかエリア】を参照

*とりまとめ資料の一部を記載

地域住民

事業者・団体

行政

外部

官民連携

日常の暮らしの充実

余暇・くつろぎの充実

買い物環境の
多様化・利便性向上

近隣での声の掛け合いによる住民同士での
買い物支援（高齢者の
買い物同行など）

他店との**共同チラシ・サービスの展開**
（例：スタンプカード等）

空き店舗への**テナント誘致**（ドラッグストア等）

空き家・空き店舗等での期間限定・実験的な出店

小高マルシェや空き地等で、**地域密着型の仮設マーケット**の協働実施

飲食店・食事環境の
充実

地元のお店を利用、**地域商店のおすすめ情報の発信**
（口コミ・SNS・掲示板）

定休日調整や昼夜営業の検討（商店同士の連携）

飲食店の**営業環境整備サポート**

空き家・空き店舗等での期間限定・実験的な出店

地域内資源（使わない家具・食器など）や**人的資源を活用・共有**できる仕組みづくり

地域商店の魅力発信と利用促進による
関心醸成

地域商店との**つながりづくり**（話しかけ、利用促進など）

地元店による**情報共有ネットワークの形成**
（マップの作成・配布）

地域内店舗の**情報発信支援**（マップ制作・Webサイト等）

外部デザイナーやクリエイターによるPR活動・デザイン支援

官民連携による**地域回遊型利用促進キャンペーン**の展開

交流・健康を支える憩いの場・
機会づくり

NIKOパークや交流センターを利用した**自主イベント**の企画

アート、スポーツをきっかけにした**大人世代のコミュニティ活動**の企画

小高交流センターの**拠点機能強化と定期交流プログラム**の展開

高齢者向けの運動プログラムやこどもとの交流ワークショップの展開

官民連携による**地域交流・リフレッシュ空間の再生活用の推進**

にぎわい施設の導入・機能強化

未利用地を活かした**地域共用空間づくり**
（小さな菜園など）

地域性を活かした**工夫**
（例：馬要素を取り入れた商品や演出）

外部コンテンツとの連携による**娯楽イベントの誘致・展開**

地域連携型エンタメ・文化プログラムの展開

仮設イベントや短期滞在空間の官民実証
（例：学生の遊び場等）

3 章

「まちなかエリア」の深堀テーマで参加者から頂いたご意見

まちなか

【D】こどもたちの学びと地域がつながる場をつくるには、どうしたらいいか考えよう

詳細は付録の【まちなかエリア】を参照

* とりまとめ資料の一部を記載

地域住民

事業者・団体

行政

外部

官民連携

学校や関連施設の活用

こどもたちが
安心できる
居場所づくり

地域ボランティアによる
見守り体制（放課後の
見守り隊、当番制等）

店舗を学習スペース等
として提供

中学生の居場所づく
り（滞在、学習の場等）

大学生や地域おこし
協力隊等による学習
支援や遊び

既存施設を活用した
滞在型居場所機能の
共創（こどもたちが放課後等
に滞在できるスペースを設ける）

学校・公共施設等の
多目的な
地域活用

空き教室等でのサロン
活動や手仕事・料理
教室などの自主活動
の実施

体育館や校庭を使っ
たスポーツイベント等の
企画

公園や公共施設の開
放に関する利用ルール
や予約制度の整備

大学やRTF、F-REI等の
出張講義・公開授業、
体験活動の実施

既存施設を活用した
滞在型居場所機能の
共創（こどもたちが放課後等
に滞在できるスペースを設ける）

旧小高商業高校の
跡地利用

市では旧小高商業高校跡地（土地・建物）の利活用について、福島県と協議し、「土地は福島県から市が譲渡を受ける。」「建物は改修に多額の費用が生じるため使用せず、福島県が解体を行う。」（建物の解体完了まで約4年かかる見込み。）ことを決定しました。今後、土地の利活用は小高区地域協議会との意見交換や市民懇談会等を行い、市民の声を踏まえた利活用を検討する。

南相馬市より情報提供

こどもと地域の関わり

こどもがふれあう
交流・体験の
機会づくり

学校行事（運動会・
草刈り・清掃活動な
ど）への協力

イベントの企画・運営
支援（店舗協力、会
場提供）

住民が教育プログラム
や地域学習に携われ
るような仕組みづくり

学生やアーティストによる
地域とこどもの協働プロ
ジェクトの企画・実施

地域・企業・学校連携
による体験イベントの定
期開催

地域の仕事・スキルを
活かしたキャリア学習
や教育支援

習いごとの「先生」にな
り得る住民のリスト化
とマッチング

学生、こどもとのコラボ
商品の開発、販売

こども向け・学校向けに
地域の仕事のリスト化

住民・団体・行政が
取り組む外との接点
づくり

地域・企業・学校連携
による体験イベントの定
期開催

子育ての支え合い
・見守りの文化づくり

親子や住民の交流、
子育ての情報共有や
支援体制の強化

地域の民間団体等に
よる子育て相談や体
験教室の実施

子育て支援の担い手
（多世代）の登録・
活用制度

小高に関わりのある
大学生による勉強・
遊びのサポート

地域・企業・行政連携
による見守りネットワー
ク強化

3章

「エリア共通」の深堀テーマで参加者から頂いたご意見

エリア共通

【A】安心して歩き、楽しくめぐれる空間をどうつくるか考えよう

詳細は付録の【エリア共通】を参照

*とりまとめ資料の一部を記載

歩きやすさ・案内・回遊




	地域住民	事業者・団体	行政	外部	官民連携
 <p>安心・安全な歩行環境の整備</p>	地域での花いっぱい運動、通学路の安全点検	店舗前の歩道・植栽の手入れや清掃活動 (歩行空間の快適性アップ)	子どもや高齢者にとって安全・安心な歩道整備 (拡幅、街灯設置等)	外部企業との協働による歩道整備・安全施設の寄附やCSR活動	官民連携による賑わいイベント運営推進(例: 歩行者天国、定期市等)
 <p>歩きたくなるまちなか・景観整備</p>	地域の魅力を伝える案内人・体験ガイドとしての住民参画	まちあるき(散策)マップの更新とデジタル対応	通りの整備(ベンチ、街路樹、遊具や憩いの広場、日差し・寒さ対策など)	専門家による景観デザインの提案・技術支援	ウォークブル(歩いて楽しいまち)空間の社会実験
 <p>回遊を支える案内・ルートづくり</p>	まちあるき(散策)マップづくりへの協力	サイクリングロード・観光ルートへの企画、運営サポート	案内板のデザイン統一・設置・モニター化	大学や専門家による史跡や文化財を活かしたルート監修・調査	地域資源を活かした周遊型観光プランづくり

エリア共通

【B】みんなが気軽につながれる居場所と関係性づくりを考えよう

*とりまとめ資料の一部を記載

交流と居場所・コミュニティ

	地域住民	事業者・団体	行政	外部	官民連携
 <p>誰もが集える居場所・交流拠点づくり</p>	多世代が集える場や活動の工夫(例: ゴミ出しの日に囲碁・将棋など)	交流センター等でのイベントの開催・充実化	交流拠点・体験型施設整備(例: まちなか集会所や貸農園等)	出張型サービスの持ち込み(飲食・文化活動など)	交流拠点の運営協働(官民連携で施設管理やイベント企画を行う体制づくり)
 <p>多世代・新旧住民の交流促進</p>	交流会や地域活動への参加呼びかけ	趣味や特技を活かした交流の場づくり	地域行事との連動支援(学校行事や地域イベントにおける住民参加の後押し)	学生や企業による交流プログラムの実施(例: 大学生の地域実習等)	世代・地域を横断した仕組みづくり(区長会・市役所・住民の共催による交流イベント開催)
 <p>地域のつながりとコミュニティ意識の再生</p>	子育てや高齢者支援など、住民同士の助け合い	多世代交流イベント企画・参加	行政区に偏らない形での住民のつながり支援	オンラインを活用した関係人口拡大・地域関わり	顔の見える交流の場設置と住民・行政・団体の協働支援

3章

「エリア共通」の深堀テーマで参加者から頂いたご意見

エリア共通

【C】小高の歴史・文化を残し、活かすにはどうすればいいか考えよう

詳細は付録の【エリア共通】を参照

*とりまとめ資料の一部を記載

地域住民

事業者・団体

行政

外部

官民連携

保存と継承



歴史資源・文化財の
保全と活用

伝統行事への参加・
運営サポート

歴史文化ワークショップ・
イベント企画・運営
(講座・体験教室等)

案内板・案内標識整
備 (国道沿い・歴史遺
産周辺)

歴史・文化保存の専
門家や研究者による助
言・指導

伝統文化を体験できる
観光・交流プログラムの
共催

場づくり・発信



歴史・文化を伝える
拠点づくり

展示物の制作・運営
への協力、体験プログ
ラムのサポート

拠点施設での体験イベ
ント・ワークショップの定
期開催

歴史・文化、自然を体
感できる展示・休憩・体
験スペースの整備・提供

学生やボランティアによる
体験型イベントの参加

住民・行政・事業者が
協働する拠点施設・史
跡の管理体制づくり



魅力発信・体験の
仕組みづくり

地域の史跡や文化財
を案内する体験活動
への参加

住民や外部団体と連携
したツアーや体験商品
の造成

多言語対応やオンライ
ン発信を通じた広域的
な情報発信

SNSやオンラインメディアを
通じた地域魅力の発信

スタンプラリーをはじめと
する回遊型コンテンツの
共同運営

エリア共通

【D】小高での住まいと暮らしをより安心・快適にするにはどうすればいいか考えよう

*とりまとめ資料の一部を記載

地域住民

事業者・団体

行政

外部

官民連携

住まい・暮らし



住まい・生活の
多様な受け皿づくり

空き家の貸出・売却の
動機づくり・参加

小高らしい住宅や住ま
い方の発見・発信
(パンフレット作成など)

住みやすい住宅 (店舗
付き住宅など) の整備
や環境づくり

空き家活用や住宅整備
に関わる提案・アイデア
提供

空き家活用・移住支援
の仕組みづくり



暮らしのつながりと
支え合いの
仕組みづくり

移住者歓迎会や町内
会の復活など、顔の見
えるつながりづくり

自社店舗の一部または
空きスペースを交流ス
ペースとして開放

地域活動の参加・交流
の後押し (交流イベ
ント等の企画・サポート)

学生による地域学習・
ワークショップ

住民・事業者・行政が
連携した地域交流や共
同作業の場づくり

3 章

「エリア共通」の深堀テーマで参加者から頂いたご意見

エリア共通

【E】小高での挑戦を支える仕組みや協働のあり方を考えよう

詳細は付録の【エリア共通】を参照

*とりまとめ資料の一部を記載

地域住民

事業者・団体

行政

外部

官民連携

頑張る人の支援・応援

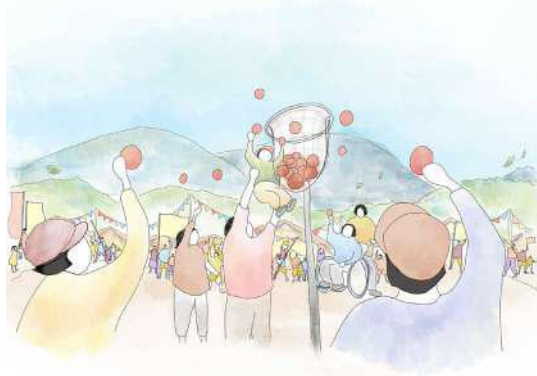
官民連携の仕組みづくり

- 挑戦する人の育成と支援
- 情報発信とつながりの仕組みづくり
- 官民一体で支える組織・仕組みづくり
- 住民・事業者・行政のつながり強化

地域内で取り組んでいる事業にボランティア参加・応援	自主的にチャレンジする事業者・活動者へのノウハウ提供や相互支援	起業チャレンジ支援 (資金助成、相談窓口、メンター派遣等)	起業やチャレンジに対する外部専門家の伴走支援	地域発チャレンジへの資金・技術・人材支援の仕組み構築
地域商店とのつながりづくり (話しかけ、利用促進など)	他事業者との交流・連携の促進 (横のつながり)	情報発信基盤 (SNS、チラシ、地域チャンネル) の整備・活用	情報マッチングシステムやデジタルプラットフォームの構築支援	シニア層に情報を届ける仕組みづくり
まちづくりに意欲的な住民同士のゆるやかなネットワーク形成	住民・行政との連携による地域活動・イベント共催 (協働体制の強化)	住民との定期的な会合・対話の場設定	ふるさと納税などを活用した地域活動への資金支援	住民・民間・行政の連携体制づくり (例: まちづくり総括組織設立)
若者や担い手が役割を持ち、挑戦を試せる地域活動の場づくり	地域資源や施設を活用したイベント等の企画・運営	職員の地域理解・情報収集の推進	住民・行政との合同起業・課題解決参画	拠点・施設をつなぐ地域活動・交流のハブ化



みんなで食事をしながら楽しく交流しているイメージ



子どもとお年寄りが楽しく運動しているイメージ



大悲山の石仏や大杉に観光客が集まり、賑わうイメージ

A C T I O N （短期的に取り組むプロジェクト）

「PLAN（テーマ別の取り組み）」をもとに、まず動き出せそうなものを「短期的に取り組むプロジェクト」として整理しました。まちづくりプランの実現に向けた“最初の一歩”として、住民と行政が協力して取り組んでいくことを目指しています。

深掘りテーマの整理結果を踏まえて設定した「短期的に取り組むプロジェクト」は、「まちづくりプラン」の実現に向けた最初の一步として、みんなで協力しながら取り組むものです。



「まちなかエリア」と「エリア共通」の
深掘りの中で出された

『すぐにでもやってみたい』とのご意見・思い



来年度に実際の行動へ移しやすい、または早く形にすることで次の動きにつながる取り組みを

「短期的に取り組むプロジェクト」として設定

来年度以降

「まちづくりプラン」の実現に向けた“**最初の一步**”
として、みんな（官民連携）で協力しながら取り組む



「短期的に取り組むプロジェクト」は、WSで出された「やってみたい」という思いをもとに、短期的に実行しやすい2つのプロジェクトとして整理しました。

「まちなかエリア」と「エリア共通」の深掘りの中で出された『すぐにでもやってみたい』とのご意見・思い

まちなかエリア

スタンプラリーや歩行者天国をやってみたい

空き家や空き地を試しに使ってみたい

まちの美化活動や花植えをやってみたい

買い物ポイント制度マップ作りをやってみたい

中学生の居場所づくりをサポートしたい

こどもとの関わりをつくりたい

エリア共通

小高に住む人同士が交流できる機会をつくりたい

多世代で交流したい
(飲み会、運動会)

通りを歩くのが楽しみになるようにしたい

観光・体験プログラム(スタンプラリー)をつくりたい

歴史がもっと身近に感じられるような工夫を

テーマやカテゴリを横断して共通性の高い内容を整理し、

短期的に実行可能な2つのプロジェクト

(計4つの官民連携の取り組み)として再構成



1 まちなか回遊とにぎわいづくりプロジェクト

1 ★ 歩いて楽しむまちなか回遊づくり

2 ★ 空き地を活用した「交流・滞在スポットづくり」

2 多世代交流プロジェクト

3 ★ みんなで語ろうおだか交流会

4 ★ みんなで楽しむスポーツフェス

WSのご意見から導かれた、「まちなか回遊とにぎわいづくりプロジェクト」と、「多世代交流プロジェクト」の概要は以下の通りです。いずれも、官民連携で実施するものです。

1

まちなか回遊と にぎわいづくりプロジェクト



- 駅前通りや商店街のまわりに点在する**空き地**を活かして、歩いて楽しめる“**まちなかの動き**”をつくるプロジェクト。
- このプロジェクトを通じて、通りを歩くこと自体が楽しく、地域の資源（空き地や空き店舗）の価値を体感できる環境をつくることを目指す。

官民連携での
短期的な
取り組みの
アイデア

- ★ 1 歩いて楽しむまちなか回遊づくり
- ★ 2 空き地を活用した「交流・滞在スポットづくり」

2

多世代交流 プロジェクト



- こどもから高齢者までが日常の中でつながり合い、**地域への愛着や関係を深めていく**プロジェクト。
- このプロジェクトを通じて、年齢や立場をこえて誰もが気軽に顔を合わせ、日常的に声をかけ合えるような関係が育つことを目指す。

官民連携での
短期的な
取り組みの
アイデア

- ★ 3 みんなで語ろうおだか交流会
- ★ 4 みんなで楽しむスポーツフェス



短期的に取り組むプロジェクト「まちなか回遊とにぎわいづくりプロジェクト」(構想メモ)



<wsで短期にやってみたいと意見があったもの>

- 回遊スタンプラリーをやりたい
- 歩行者天国で人を呼びたい
- 買い物ポイント制度をやってみたい
- お店に関するマップをつくってみたい
- 空き家や空き地を試しに使ってみたい
- 観光・体験プログラムをつくりたい

WSでの意見を踏まえ、短期的に取り組むプロジェクトを検討

WSの結果も踏まえたプロジェクトの構想

WSの結果から見てきた現状・課題

“次の動き”のヒント

官民連携での短期的な取り組みのアイデア

まちなかを
楽しむ
仕掛けづくり

- ✓ 小高では、「浮舟まつり」などの地域行事を通じた自然な交流があった
- ✓ 震災後、「浮舟まつり」は「つながる市」などと同日開催で賑わいをみせる
- ✓ 一方で、イベント以外で、来訪者がまちを回遊する仕組みが少ない
- イベントのとき以外にも来訪者がまちを歩いて楽しめる仕組みづくりが必要

みんなが
歩きたくなる
イベントづくり

1
歩いて楽しむ
まちなか
回遊づくり

商店の
にぎわい
・
利用促進

- ✓ 小高には、旅館、鮮魚店、呉服店、スーパーなど多くの商店が並び、多くの人が行き交い、地元で買い物する仕組みがあった
- ✓ 震災後、震災前からあるお店の再開や、新しい店舗の出店も進んでいる。
- 一方で、住民の商店利用が定着化しきれていない状況も見受けられる
- 住民が日常的に商店を利用する雰囲気をつくっていくことが必要

お店と一緒に
まちを盛り上げる
仕組みづくり

2
空き地を
活用した
「交流・滞在
スポットづくり」

空きスペース
を活かした
交流づくり

- ✓ 店舗が並び、買い物や立ち話を通じて自然な交流の場が生まれていた
- ✓ 震災後は、空き店舗や空き地が増え、まちなかを歩く人の姿も少なくなり、日常的な滞在や交流の機会が限られてきている
- 空きスペースを活用し、歩いて立ち寄りたくなる場や交流のきっかけが必要

空き地・
空き店舗などの
活用



短期的に取り組むプロジェクト「まちなか回遊とにぎわいづくりプロジェクト」(アクションプランシート)

目的
・
ねらい

ワークショップで出された「まちなかを歩いて楽しみたい」「空き地を活かした交流の場がほしい」といった意見をもとに、**駅前通りや商店街のまわりに点在する空き地を活かして、歩いて楽しめる“まちなかの動き”をつくるプロジェクト**。このプロジェクトを通じて、**通りを歩くこと自体が楽しく、地域の資源(空き地や空き店舗)の価値を体感できる環境をつくることを目指す。**

- 期待する効果
- ✓ 小高のまちなかを歩きながら、地域の魅力や人との出会いを楽しむ
 - ✓ 空き地や空き店舗の活用アイデアが生まれるきっかけにする
 - ✓ 「歩いて心地よいまち」の雰囲気育てる

力を合わせて!!



官民連携での短期的な取り組みのアイデア (案) *ここで示す内容は、ワークショップでの多様なご意見・アイデアをもとに整理したものです

何を?	実施概要の例	地域の役割の例	行政の役割の例
<p>1 歩いて楽しむまちなか回遊づくり</p>	<p>◎ 日常的に“歩きたくなる”まちなかをつくる</p> <p>歩きたくなる“流れ”づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ まち歩きマップ/回遊ルートの作成 (アナログ版・デジタル版) ✓ 宝探し、食べ歩きなどの歩くきっかけづくり ✓ 空き地で楽しむ「モルック」「ポツチャ」などのミニ遊び企画 ✓ 店舗との連携 (クーポン、共同販売など) <p>楽しみながら続けられる“仕組み”づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 歩く×健康づくり企画 (歩数チャレンジ、チェックポイント測定など) ✓ SNS投稿キャンペーン (季節テーマ、回遊スポット紹介など) 	<ul style="list-style-type: none"> • 回遊ルートやおすすめスポットの提案、マップ等の作成 • 回遊ポイントとなる店舗・場所の協力 • ミニ遊び企画のアイデア出し • SNSや口コミでの発信 • イベント時の運営協力 	<ul style="list-style-type: none"> • マップ等の作成・配布の支援 • 各種企画の実施サポート • 安全面の調整 • 関係者・店舗との連携支援 • 広報や備品等の運営支援
<p>2 空き地を活用した「交流・滞在スポットづくり」</p>	<p>◎ 誰でも立ち寄れる“小さな滞在スポット”をまちなかに増やす</p> <p>立ち寄れる“居場所”づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 小さな滞在スポットの設置 (ベンチ・テーブル、人工芝、ミニ遊び場など) ✓ 自由に使えるエリアの設置 (運動、BBQなど) ✓ 空き地ごとの“らしさ”を演出 (季節の装飾、展示など) <p>滞在のきっかけをつくり、使い方を試す</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ キッチンカー・マルシェ・雑貨販売など、にぎわいをつくる試行 ✓ フォトコンテストやSNS企画 (空き地の使い方をテーマに) ✓ チャレンジショップなどの社会実験 	<ul style="list-style-type: none"> • 活用のアイデアの提案や整備への協力 • イベントや活動の試行 (企画・運営) • 日常の見守りや維持管理 	<ul style="list-style-type: none"> • イベントや活動の運営支援 • 関係者 (土地所有者・店舗など) との連携支援 • 広報や備品等の運営支援
<p>どこで?</p>	駅前通り～妙見通り		
<p>いつ?</p>	季節や既存の地域イベントに合わせて柔軟に開催 (単発開催ではなく、1か月～半年程度の分散開催)	<p>誰が?</p> <p>【土地・施設利用調整】地権者・行政 【企画・運営】住民有志・商店・飲食店・企業、商工会、観光協会、行政 【技術支援・情報発信】IT・デジタル専門家、高校生 * 必要に応じて実行委員会を設け、店舗への声かけ、マップづくり、当日の運営、広報など役割分担を行う。</p>	



短期的に取り組むプロジェクト「多世代交流プロジェクト」(構想メモ)



<WSで短期にやってみたいと意見があったもの>

みんなで楽しめる飲み会や交流会を定期開催したい 小高に住む人同士の交流があるとよい

運動会やスポーツ大会などをやりたい こどもとの関わりをつくりたい シニア層への情報発信が課題

WSでの意見を踏まえ、短期的に取り組むプロジェクトを検討

WSの結果も踏まえたプロジェクトの構想

WSの結果から見えてきた現状・課題

“次の動き”のヒント

官民連携での短期的な取り組みのアイデア

交流の
場・機会

- ✓ かつて小高では、行政区ごとの盆踊りや運動会など地域行事が盛んに行われ、世代を超えて自然なつながりが生まれていた
 - ✓ 震災後は、地域行事や各種イベントは開催されているものの、参加する人が限られ、世代間の交流の機会が減っている
 - ✓ また、震災前からの住民と、新たな住民が出会う場も多くはない
- 世代や立場をこえて、住民が気軽に集い、交流できるきっかけづくりが必要

語らいを通じて
ゆるやかに
つながる場づくり



居場所づくり

- ✓ かつては、学校帰りに立ち寄れる場所や、地域の大人が自然と見守る雰囲気があり、公園などではこどもたちが一緒に遊ぶ姿が見られた
 - ✓ 現在は、放課後や休日にこどもが気軽に・安心して過ごせる場所が少なく、自宅と学校の往復になりがちな状況がある
- こどもが地域の中で安心して過ごし、自然と人と関われる場づくりが必要

こどもや若者が
安心して過ごせる
居場所づくり



情報発信

- ✓ かつては、回覧板や口コミを通じて地域の情報が自然に行き渡り、行事の知らせも人伝で広まっていた
 - ✓ 現在は、世代によって情報の受け取り方が異なり、地域全体に情報が届きにくい面がある。イベントを知らない人や参加しづらい人も少なくない
- 誰にでも情報が届き、気軽に参加できる伝え方や仕組みづくりが必要

地域全体への
情報発信と
参加の呼びかけ

短期的に取り組むプロジェクト「多世代交流プロジェクト」(アクションプランシート)



目的 ・ ねらい

ワークショップで出された「世代をこえて交流したい」「地域の人と気軽につながれる場がほしい」といった意見をもとに、**子どもから高齢者までが日常の中でつながり合い、地域への愛着や関係を深めていくプロジェクト**。このプロジェクトを通じて、**年齢や立場をこえて誰もが気軽に顔を合わせ、日常的に声をかけ合えるような関係が育つこと**を目指す。

- | | | |
|--------|--|---|
| 期待する効果 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 子どもや若者が地域の大人と自然に関わる環境をつくる ✓ 世代を超えて一緒に楽しめるイベントを通じて交流を深める | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 行事や活動を通して、住民同士のつながりを育む ✓ 情報発信や口コミで参加の輪を広げ、地域に活気を生む |
|--------|--|---|

力を合わせて!!



官民連携での短期的な取り組みのアイデア (案) *ここで示す内容は、ワークショップでの多様なご意見・アイデアをもとに整理したものです

何を?

実施概要の例	地域の役割の例	行政の役割の例
--------	---------	---------

◎気軽に参加できる“地域のつながりの場”をつくる

屋内中心の“集まれる場づくり”

- ✓ テーマ交流会 (新旧住民/子育て/趣味)
- * 趣味: 読書、映画、ボードゲームなど
- * 地元店と連携した軽食・ドリンク提供など
- ✓ 学校と地域がつながる交流企画の実施 (文化祭との連携や、節目を地域で祝うなど)

屋外中心の“体験イベントづくり”

- ✓ 季節ごとの屋外交流イベント (芋煮会、BBQ、花見、ビアガーデン、餅つきなど)
- ✓ 地域ぐるみの避難訓練 × 交流企画
- ✓ 地域文化・世代間交流の体験 (民話の聞き語り、食や音楽での交流など)

- 会場の提供や参加者の呼びかけ
- 軽食・飲み物の準備、運営への協力
- テーマ検討や次回企画づくりなど、“みんなで場を育てる”ための継続的な関わり

- 店舗・会場の使用調整や関係者との連携支援
- 広報や備品貸し出しなどの運営支援
- 安全面や保険手配、必要な許可などのサポート

◎みんなで楽しめる“体を動かす交流イベント(複合型)”をひらく

みんなで体を動かして楽しむ場づくり

- ✓ 運動系の遊びやプログラム (玉入れ、リレーなど)
- ✓ 協力・発想で楽しむ企画 (伝言ゲーム、宝探しなど)
- ✓ 防災×交流の体験 (借り物(防災用品)競走など)
- ✓ まちなかを舞台にした企画 (駅前レースなど)
- ✓ ギネスへのチャレンジ、ロボテス等のコラボ

“文化・交流の要素”の組み合わせ

- ✓ こどもの作品展示・発表会
- ✓ カラオケ、ミニライブなどの文化交流
- ✓ 地元団体・学生とのミニ企画 (紹介ブース、写真展など)
- ✓ イベントを盛り上げる楽しい仕掛け (面白い表彰・景品)

- 種目や進行の検討、当日の運営協力
- ポスターづくりや口コミによる参加呼びかけ
- 競技の補助や見守り
- 文化・交流要素の運営支援

- 会場調整や安全管理
- 備品・保険の手配、防災面での支援
- 広報や関係団体との連携支援

3

みんなで
語ろう
おだか交流会

4

みんなで
楽しむ
スポーツフェス

どこで?

- ③ 地域の施設や店舗 (屋内・屋外それぞれに適した場で開催)
- ④ 小・中学校の校庭を基本に、まちなか空間の活用も検討

いつ?

- ③ 月1回程度の定期開催 (昼・夜開催の交互)
- ④ 単独のイベントとして、春または秋の実施

誰が?

【土地・施設利用調整】地権者・行政
 【企画・運営】住民有志・商店・飲食店・企業、商工会、観光協会、行政
 【各種協力】学生 (小中高校生)
 * 必要に応じて実行委員会を設け、プログラムの企画、備品の準備、当日の運営や広報など役割分担を行う。

まちづくりプランで描いた「最初の一步」をかたちにしていくためには、住民・事業者・行政がそれぞれの立場から力を合わせていくことが大切です。

小高のまちづくりは、誰かひとりではなく、みんなで協力し合い、少しずつ進めていくもの。

まずは、短期的に取り組むプロジェクトをみんなで試行錯誤しながら一步一步着実に進めていくことが、まちづくりに不可欠な住民と行政の信頼関係を生み、その信頼関係を軸とした「小高区まちづくりプラン」全体の実現、そして小高のまちづくりの推進につながっていきます。

また、取り組みを進める中では、状況の変化や実際の成果をふりかえりながら、内容を見直したり次の一步を考えたりして効果的に進めていくことも大切です。

小高の「まちづくりプラン」は、“つくって終わり”ではなく、“みんなで育てていく計画”として、これからも更新を重ねながら着実に取り組んでいきます。



A P P E N D I X (付録)

01	まちなかエリア	—————	P 1
02	エリア共通	—————	P 15
03	素案に対するWS参加者からのご意見	—————	P 29

【A】駅からまちへ、歩いて楽しい場所にするには、どうしたらいいか考えよう

【駅前～通りの賑わいについて】

「にぎわいや交流を生む通りをどうつくっていくか」～通りににぎわいが生まれ、人が立ち寄りたくなるようにするには？

WSでの意見を分類

イベント等による賑わい関連

【WSでのご意見の一部】

- 月1歩行者天国、〇〇市場を開催
- 駅前通りの賑わいづくりに向けて屋台村をつくる
- 空き地を利用したイベント（キッチンカー、マルシェ等）
- 高校生が時間をつぶせる場所として空き地が利用できるとよい
- 観光案内人等を駅に配置する

駅前空間の整備や演出関連

【WSでのご意見の一部】

- 駅ロータリーにシンボルをつくる
- 駅前に案内板の設置
- 駅前通りの整備
- 駅前通りを明るく安全な通りにする

人が集まる場所や仕組みづくり関連

【WSでのご意見の一部】

- 人が集まる食事のできる場所をつくる
- 生活感のあるお店が欲しい
- 平日は住民が、休日は外部の人が集まる施設が欲しい
- 商店街での連携・賑わい振興
- 小高で買い物をする啓発活動、買い物ポイント制度

イベントや仕掛けによる
賑わいづくり

通りや空き地に人が集まり、
交流が生まれる機会を創出する

歩きたくなる・立ち寄りたく
なる通りづくり

通りの雰囲気や環境を整えることで、
安心して歩きたくなる空間にする

日常のにぎわいを生む
店舗・仕組みづくり

飲食や買い物など、日常的に人が
訪れる機能を整える

イベントや仕掛けによる 賑わいづくり



通りや空き地に人が集まり、
交流が生まれる機会を創出する

地域住民

- 地域ボランティアによる出店サポート
- イベント時の空き地等の貸し出し
- 地域の魅力を伝える案内人・体験ガイドとしての住民参画

事業者・団体

- 飲食店や事業者によるキッチンカー出店やミニマルシェ等の企画運営、既存イベントの継続化
- 歩きながら立ち寄れるサービス提供（食歩歩き、休憩可能スペースなど）
- 商店街によるコラボ企画

行政

- 公共空間（空き地・通り）の利活用ルール整備・申請簡素化
- イベント開催の広報支援、助成制度

外部

- 高校生がつくる空き地等での“まちなかたまり場”の企画

官民連携

- 官民連携による賑わいイベント運営推進（例：歩行者天国・定期市等の回遊性を高めるもの等）
- 駅前観光案内人配置・案内体制強化
- イベント情報の共有による開催数や規模の調整

Hint! 実現に向けたヒント（他地域の事例）

- 隔月開催の「海辺のあたまマルシェ」を駅前商店街で実施。
- 地元出店者・クラフト店舗・飲食店を誘致し、都市住民や観光客の回遊と滞在を促進。



静岡県熱海市（熱海駅前・銀座商店街）

歩きたくなる・立ち寄りたくなる 通りづくり



通りの雰囲気や環境を整えることで、
安心して歩きたくなる空間にする

地域住民

- 通りの美化・緑化活動への参加
- 地域で話し合いながら通りの使い方や見せ方を提案

事業者・団体

- 店先の美化（花やのぼり、掲示板など）
- 商店街として統一した外観づくりへの協力
- 店頭地域情報や歴史・観光案内の掲示、貸自転車の運営・案内への協力

行政

- 駅前・通りの整備（外灯、ベンチ、案内板、モニメント、街路樹、プランター、日差し・寒さ対策となる工夫、欄干修復など）
- 歴史的建築や交流施設を活かした歴史展示・景観整備

外部

- 通りのデザイン・動線計画などの専門的助言

官民連携

- 企業・団体・学校・住民が連携し、草刈りや美化活動を定期的に行う仕組みの整備
- 駅前通りでの店舗付き住宅の推進（通りに面したにぎわい創出）

Hint! 実現に向けたヒント（他地域の事例）

- 商店街や駅前広場での花植え、美化活動、市民と店主主導の夏祭りなど、「公共空間と民間空間を繋ぐ」取り組みを展開し、官民連携で賑わいを維持。



岩手県大船渡市（おおふなと夢商店街）

日常のにぎわいを生む 店舗・仕組みづくり



飲食や買い物など、日常的に人が
訪れる機能を整える

地域住民

- 地域内の買い物ニーズをまとめて行政や事業者伝える
- 地元のお店を利用、地域商店のおすすめ情報の発信（口コミ・SNS・掲示板）

事業者・団体

- 買い物ポイント制度の運営
- 営業時間の柔軟な見直し、取り扱い品目の多様化
- 地域商店の情報発信（ポスターやQRコード、情報誌の発行等）

行政

- 空き店舗への出店・起業支援（家賃補助、改修補助、借りやすい仕組みづくり）
- チャレンジしやすい環境づくり（チャレンジショップ、ボックスショップ等）
- ポイント制度や買い物支援制度の仕組みづくり

外部

- 地域外の事業者・起業家などによる、空き家・空き店舗等での期間限定・実験的な出店
- 地域外企業（スーパー、日用品等）の出張販売

官民連携

- 仮設イベントや短期滞在空間の官民実証（例：移住検討者の一時宿泊所、学生の遊び場、テーマ型アートプロジェクト等）
- 地域の店舗を拠点にした市・マルシェの開催

Hint! 実現に向けたヒント（他地域の事例）

- 地元住民による「まちの緑側新聞」や掲示板・SNSを通じて、おすすめ店舗情報などを定期発信。
- 「この店にもっとこんなメニューがほしい」という声を、店主と共有する機会（座談会）も実施。



石川県珠洲市

【A】駅からまちへ、歩いて楽しい場所にするには、どうしたらいいか考えよう

【駅前通りの景観について】

「歩きたくなる・美しい駅前通りをどうつくっていくか」～駅からまちなかを歩いてみたくなるような道にするには？

WSでの意見を分類

景観の保全・創出関連

【WSでのご意見の一部】

- ・駅前通りの無電柱化、街灯整備、街路樹を植える
- ・駅前を明るく美しく
- ・駅前通りに高い建物は新設しないようにする
- ・特徴的な建物を修復する
- ・定期的な草刈りによる環境美化
- ・東町団地にひだまり菜園を整備

歩きたくなる道と仕掛け関連

【WSでのご意見の一部】

- ・ウォーカブルな街にする散策ルートづくり
- ・楽しめるコンテンツづくり
- ・歩くルートづくり
- ・駅前通りをミニシャンゼリゼへ
- ・集団登校等、こどもが安全に歩ける環境

まちを歩いて楽しむ仕掛け関連

【WSでのご意見の一部】

- ・歩くことで貯まるポイント制度
- ・歩きたくなるモノ・コト（スポーツや花）
- ・食べ歩き
- ・神社の参道をイベントとして動機付け

まちの景観と調和のある
環境づくり

まちの個性を活かし、調和と美しさを
整える環境をつくる

歩きたくなる通り・ルート
づくり（ウォーカブル化）

歩いて楽しい・回遊したくなる
通りの工夫を推進する

通りの魅力向上に向けた
仕掛け・動機付け

飲食や買い物など、日常的に
人が訪れる機能を整える

まちの景観と調和のある環境づくり

まちの個性を活かし、
調和と美しさを整える環境をつくる



地域住民

- 自主的な清掃活動（草刈り・ゴミ拾い等）
- 植栽や花壇の維持・管理への参加

事業者・団体

- 店先の美化（花やのぼり、掲示板など） *再掲
- 商店街として統一した外観づくりへの協力 *再掲
- 空き家・空き店舗の簡易改修による景観保全

行政

- 駅前・通りの整備（外灯、ベンチ、案内板、モニュメント、街路樹、プランター、日差し・寒さ対策となる工夫、欄干修復など） *再掲
- 花壇や除草剤の資材提供・助成
- 景観に関するルールづくり（条例、協定等）

外部

- 専門家による景観デザインの提案・技術支援
- 学生による環境教育の一環としての美化活動の実施

官民連携

- 企業・団体・学校・住民が連携し、草刈りや美化活動を定期的に行う仕組みの整備 *再掲
- 駅前通りの高さ制限や色調・素材の推奨ルールの策定

ヒント！ 実現に向けたヒント（他地域の事例）

- 商店街が「桜」をテーマにした統一した外観・看板などを設け、通りの景観を整備。
- 住民・店舗参加型で美化活動を展開し、景観の統一感による回遊性向上を図っている。



愛知県豊田市（桜町本町通り商店街）

歩きたくなる通り・ルートづくり （ウォーカブル化）

歩いて楽しい・回遊したくなる
通りの工夫を推進する



地域住民

- 季節イベントや食べ歩き企画への住民参加
- 地域の魅力を伝える案内人・体験ガイドとしての住民参画 *再掲

事業者・団体

- まちあるき（散歩）マップの更新・作成
- 店舗同士の回遊促進イベント（スタンプラリー、テーマ散歩など）
- 歩きながら立ち寄れるサービス提供（食べ歩き、休憩可能スペースなど） *再掲

行政

- 無電柱化、歩道整備、サイン整備などの物理的な安全対策と道案内機能の向上
- 駅前・通りの整備（外灯、ベンチ、案内板、モニュメント、街路樹、プランター、日差し・寒さ対策となる工夫、欄干修復など） *再掲

外部

- 専門家による景観デザインの提案・技術支援 *再掲
- 専門家や学生と連携した通り空間の調査

官民連携

- ウォーカブル（歩いて楽しいまち）空間の社会実験

ヒント！ 実現に向けたヒント（他地域の事例）

- 道路上や駐車帯等の空間に、机・椅子などのアメニティの他、植物が植えられたプランター等を配置したパークレットを設置。
- 人が溜まったり、休憩したり、飲食したりできるような魅力的な空間へ。



宮城県仙台市（定禅寺通り）

通りの魅力向上に向けた 仕掛け・動機付け

飲食や買い物など、日常的に
人が訪れる機能を整える



地域住民

- 季節イベントや食べ歩き企画への住民参加 *再掲
- 地域の魅力を伝える案内人・体験ガイドとしての住民参画 *再掲

事業者・団体

- 買い物ポイント制度の運営 *再掲
- 営業時間の柔軟な見直し、取り扱い品目の多様化 *再掲
- 歩きながら立ち寄れるサービス提供（食べ歩き、休憩可能スペースなど） *再掲

行政

- イベント開催の広報支援、助成制度 *再掲
- 歴史資源を活かした回遊・にぎわいの創出（例：参道を活用したイベント等）

外部

- 地域外企業による、イベントやキャンペーンの協力・企画
- 専門家による地域の特性に合った交流イベントの企画運営・ノウハウの提供

官民連携

- まちあるきを楽しむ導線や仕組みづくり（例：イベント連動、ポイント制度、情報発信）
- 行政・商店・クリエイター等の連携による、駅前・通りの魅力をストーリー性をもった発信

ヒント！ 実現に向けたヒント（他地域の事例）

- 春祭りの2日間で実施したデジタルスタンプラリーのイベント。
- 市街地の店舗やチェックポイントを巡り、10ポイント達成で応募し、抽選で景品のプレゼント。
- 市を起点としながら、地域団体や事業者と連携して実施。



岩手県遠野市

【B】使われていない場所をまちの資源として活かすには、どうしたらいいか考えよう

【空き家や空き店舗の利活用について】空き家や空き店舗を使って、やってみたいことに挑戦できるようにするには？
【空き地の利活用】空き地を活かして、地域に新しい“使える場所”をつくるにはどうするか？

WSでの意見を分類

拠点形成・地域テーマ関係

【WSでのご意見の一部】

- ・「クラフトなまち」「歴史が感じられるまち」など小高全体のテーマ性が必要
- ・小高交流センター周辺を拠点化し、他の施設とつなぐ
- ・モデル店舗、シェアアトリエ、民泊、ドローン練習場などの拠点形成
- ・核となるプラットフォームづくりで、点在するスポットを結ぶ
- ・レンタサイクル等から始めてみる

**交流拠点の形成と
遊休資源の連携活用**

空き地や施設等を活かし、
交流拠点を結ぶ動線を形成する

空いている場所の一時活用・演出関係

【WSでのご意見の一部】

- ・空き地を花壇・ベンチ・健康遊具などの“仮の居場所”として活用
- ・イルミネーションやお花畑など、空き地の景観的演出
- ・東屋や気軽に立ち寄れるスペースづくり
- ・かつての施設をプレートで紹介
- ・空き地を食堂や軽飲食店の場に使う、仮設店舗の設置

**誰もが使える“居場所”・“仮の
使い方”による空間の活用**

空き家・店舗、空き地を気軽に
使える場として活かす

空き家・空き地の利活用・事業化関係

【WSでのご意見の一部】

- ・空き家を活用してチャレンジショップを駅前通りで開催
- ・空き家になる前の“予備軍”段階から対策・活用検討
- ・空き家を短期滞在・シェアハウス型（食堂付）などに整備
- ・出店希望者に対し、マッチングや支援の仕組みが必要
- ・空き地を分譲地や駐車場・住宅用地として整備
- ・収益が出る形を考える（持続的事業）

**チャレンジ・定住・商業など
継続的な利活用の仕組みづくり**

継続利用を見据えた仕組みと
支援体制を整える

交流拠点の形成と 遊休資源の連携活用

空き地や施設等を活かし、
交流拠点を結ぶ動線を形成する



地域住民

- 空き家・空き地の所有者が利活用に関心を持つように働きかける活動（声がけ、見守り、協力要請）
- テーマ性ある空間づくりへの協力（例：クラフト展示等）

事業者・団体

- 事業者の連携による、小高交流センターを核としたエリア型拠点ネットワークの形成（例：クラフト×歴史×民泊などの地域の文化資源との連携を含む。他地域との差別化を意識した体験プランづくり）
- 空き家・店舗を利用したお試し出店やものづくり活動の共同の場づくり（例：モデル店舗、シェアアトリエ等）

行政

- 空き家・空き地・空き店舗の活用実態調査とマッチング支援（ミライエとの連携強化）
- 起業支援・改修補助・短期出店支援制度の設計

外部

- 空き地・空き家を利用した非日常的体験の提供（ドローン、アウトドア等）
- 学生・アーティストの滞在制作

官民連携

- 複数主体が連携するプラットフォームの運営・滞在型拠点の整備
- 交流拠点間移動支援策の導入（レンタサイクル等）

実現に向けたヒント（他地域の事例）

- 築70年以上の空き家をシェアハウス兼コミュニティスペースとして再生。
- 定期的なオープンデーや地域交流イベントを開催し、住民と空間、訪問者をつなぐ地域文化の発信拠点として機能。



長野県長野市（「つくる邸」）

誰もが使える“居場所”・ “仮の使い方”による空間の活用

空き家・店舗、空き地を気軽に
使える場として活かす



地域住民

- 空き家・店舗の「定休日活用」や「時間貸し」
- 自主的な清掃活動（草刈り・ゴミ拾い等） * 再掲
- 未利用地を活かした地域共用空間づくり（小さな菜園・花壇づくり、季節の飾り付けなど）

事業者・団体

- 多様な主体による暫定活用・試行的利活用（例：週替わり出店、ミニマーケット等）
- 民間によるオープンスペースの共用利用（例：キッチンカー、移動販売、共同駐車場）

行政

- 駅前・通りの整備（外灯、ベンチ、案内板、モニュメント、街路樹、プランター、日差し・寒さ対策となる工夫、欄干修復など） * 再掲
- 空き地の仮設利用支援制度の整備
- チャレンジしやすい環境づくり（チャレンジショップ、ボックスショップ、戸建て借家の改修支援等） * 再掲

外部

- 空き地・空き家を利用した非日常的体験の提供（ドローン、アウトドア等） * 再掲
- 学生・アーティストの滞在制作 * 再掲

官民連携

- 地域資源の魅力発信・記録継承（例：かつての施設へのプレートの設置等）
- 仮設イベントや短期滞在空間の官民実証（例：移住検討者の一時宿泊所、学生の遊び場、テーマ型アートプロジェクト等） * 再掲

実現に向けたヒント（他地域の事例）

- 商店街近くの空き地に中古コンテナを設置し、雑誌図書館やチャレンジショップなどを期間限定で設置。
- NPO が空き地を借りて、集客施設として運営。



佐賀県佐賀市（「わいわい!! コンテナプロジェクト」）

チャレンジ・定住・商業など 継続的な利活用の仕組みづくり

継続利用を見据えた仕組みと
支援体制を整える



地域住民

- “空き家予備軍”の早期相談・声かけ
- 空き家を共同での“仮の拠点”として活用（例：サロン、食事会等）

事業者・団体

- 空き家を活かした短期宿泊やシェアハウスの運営
- 地元事業者によるチャレンジショップ等への協力
- 民間によるオープンスペースの共用利用 * 再掲（例：キッチンカー、移動販売、共同駐車場）

行政

- 既存の補助金の利活用促進（情報発信強化）
- 空き家・空き地・空き店舗の活用実態調査とマッチング支援（ミライエとの連携強化） * 再掲
- チャレンジしやすい環境づくり（チャレンジショップ、ボックスショップ、戸建て借家の改修支援等） * 再掲

外部

- 外部人材との連携による段階的な空間活用の定着支援 * 再掲
- 外部企業や専門家と連携し、収益性のある事業モデルの構築・展開

官民連携

- 民間知見の活用による空間活用モデルの社会実装（企業やNPO等のノウハウを取り入れ、複合的な利活用を官民共同で事業化）

実現に向けたヒント（他地域の事例）

- 実行委員会*が市商工まつりに合わせて、商店街の空き店舗2軒を一時的に借り上げ、創業希望者がチャレンジ出店。
- 店舗オーナーへの交渉・清掃・看板作成など、実行委員と創業希望者が連携し実施。



*市、商工会、地元有志、地元企業、教育機関等 埼玉県羽生市（「(仮称)NEXT羽生プロジェクト」）

【C】小高の買い物・食事・楽しめるところをもっと充実させるには、どうしたらいいか考えよう

【日常の暮らしの充実について】

「買い物や飲食など、日常の暮らしを支えるにはどうするか」～買い物や飲食の場が、もっと使いやすく・選べるようにするには？

WSでの意見を分類

買い物・生活利便関係

【WSでのご意見の一部】

- ドラッグストアの誘致が難しいなら代替サービスの検討が必要
- 小高ストア以外の買い物環境の充実（移動販売の活用など）
- 移動販売を活用し、高齢者など歩行困難な人への配慮
- 既存施設へのテナント出店

飲食・食文化関係

【WSでのご意見の一部】

- 飲食店が少なく、特に月曜定休が多い問題
- 昼夜を問わず和食が食べられる場所があるとよい
- パン屋、肉屋、花屋の誘致

情報発信・関心喚起関係

【WSでのご意見の一部】

- ポスターやQRコードを使った案内、まちあるきマップの作成（手作り感重視）
- 小高認証制度（マーク）による利用しやすいの向上
- 地域商店の良さ（空気感）を守る意識
- 地域の無関心・「他人事化」の問題意識。住民の意識変革の必要性

買い物環境の
多様化・利便性向上

多様な買い物手段を増やし、誰もが利用しやすくする

飲食店・食事環境の充実

飲食店の充実と
利用しやすい営業環境を整備する

地域商店の魅力発信と
利用促進による関心醸成

地域商店の魅力や個性が見える化し、
地域内外の人々の関心と愛着を高める

買い物環境の 多様化・利便性向上

多様な買い物手段を増やし、
誰もが利用しやすくする



地域住民

- 近隣での声の掛け合いによる住民同士での買い物支援（高齢者の買い物同行など）
- 地域内の買い物ニーズをまとめて行政や事業者に伝える *再掲

事業者・団体

- 営業時間の柔軟な見直し、取り扱い品目の多様化 *再掲
- 移動販売の導入や連携
- 他店との共同チラシ・サービスの展開（例：スタンプカード等）

行政

- 移動販売業者への支援制度（登録制度、補助、場所の提供）
- 空き店舗等へのテナント誘致（ドラッグストア等）
- 買い物環境調査（住民ヒアリングや交通分析）

外部

- 地域外の事業者・起業家などによる、空き家・空き店舗等での期間限定・実験的な出店 *再掲
- シェアハウス等の仕組みの活用による、若者や外部人材が高齢者の買い物や移動支援

官民連携

- 小高マルシェや空き地等で、地域密着型の仮設マーケット（移動販売、学生出店、ワゴン販売など）の協働実施



実現に向けたヒント（他地域の事例）

- 公共施設等に商店街の各商店が移動出店する形態で、出前商店街「おらほのふれあいべんり市」と銘打ち開催。
- 会場まで遠いお客さん向けにはシャトルバスの運行もしている。



秋田県にかほ市

飲食店・食事環境の充実

飲食店の充実と
利用しやすい営業環境を整備する



地域住民

- 地元のお店を利用、地域商店のおすすめ情報の発信（口コミ・SNS・掲示板） *再掲
- 地域内の買い物ニーズをまとめて行政や事業者伝える *再掲

事業者・団体

- 定休日調整や昼夜営業の検討（商店同士の連携）
- 飲食店マップや定休日一覧の整備・配布
- 共同メニューやお食事券の展開

行政

- 需要の高い業種の誘致に向けて、初期費用支援・空き店舗情報提供・販促支援
- 飲食店の営業環境整備サポート

外部

- 地域外の事業者・起業家などによる、空き家・空き店舗等での期間限定・実験的な出店 *再掲

官民連携

- 小高マルシェや空き地等で、地域密着型の仮設マーケット（移動販売、学生出店、ワゴン販売など）の協働実施 *再掲
- 地域内資源（使わない家具・食器など）や人的資源を活用・共有できる仕組みづくり



実現に向けたヒント（他地域の事例）

- 毎月第3土曜夜19:00～23:00に「ナイトバザール」を開催し、多くの店舗が夜間営業を実施。
- 通常は早く閉店する商店街で夜の営業を継続することで、地域内外から来街者を集めている。



埼玉県秩父市（「みやのかわ商店街」）

地域商店の魅力発信と 利用促進による関心醸成

地域商店の魅力や個性を見える化し、
地域内外の人々の関心と愛着を高める



地域住民

- 地元のお店を利用、地域商店のおすすめ情報の発信（口コミ・SNS・掲示板） *再掲
- 地域商店とのつながりづくり（話しかけ、利用促進など）

事業者・団体

- 地元店による情報共有ネットワークの形成（マップの作成・配布）
- 店主同士で発信ノウハウや魅力づくりの共有
- 買い物ポイント制度の運営 *再掲

行政

- 地域内店舗の情報発信支援（マップ制作・Webサイト等）
- まちあるき・回遊促進インフラの整備（案内板やベンチ等の整備による買い物動線の演出）

外部

- 外部デザイナーやクリエイターによるPR活動・デザイン支援
- 外部人材との連携による地域商店体験プログラムの構築

官民連携

- 官民連携による地域回遊型利用促進キャンペーンの展開
- 多主体連携による地域商店のPR活動の推進（商店街×学生×企業の協働）



実現に向けたヒント（他地域の事例）

- 地域全体で「おもてなし」意識の向上を図る取り組みの一環として「おもてなしステッカー」と「吊り下げ看板」を作成。
- 会員企業の店舗窓口・入口、営業車、タクシー、バスなどに掲示。



山口県周南市（徳山商工会議所）

【C】小高の買い物・食事・楽しめるところをもっと充実させるには、どうしたらいいか考えよう

**【余暇・くつろぎの充実について】「くつろぎや楽しみを感じられる場や機会を増やすにはどうするか」
くつろいだり楽しんだりできる場やイベントを、地域の中でつくっていくには？**

WSでの意見を分類

交流・健康拠点関係

【WSでのご意見の一部】

- 交流拠点として大人の遊び場があるとよい
- 60歳±の人が町をつないでいるため、健康づくり施設ができるとうい
- 銭湯があるとよい
- 銭湯を中心としたコミュニティ
- 小松屋旅館に銭湯をつくる

集客・にぎわい施設関係

【WSでのご意見の一部】

- 遊ぶ施設、食べる所、泊る場所があれば人は集まる
- ドッグランや猫カフェの設置

**交流・健康を支える
憩いの場・機会づくり**

世代を問わず集い、交流や健康づくりに
つながる場や機会を整備する

にぎわい施設の導入・機能強化

遊び・飲食・宿泊などの機能を備え、
人が訪れたい環境を整備する

交流・健康を支える憩いの場・機会づくり



世代を問わず集い、交流や健康づくりに
つながる場や機会を整備する

地域住民

- NIKOパークや交流センターを利用した自主イベントの企画
- 空き地等を活用した健康に関する取組の実施

事業者・団体

- 趣味やアート、スポーツをきっかけにした大人世代のコミュニティ活動の企画
- 福祉・健康関連NPOとの連携による見守り・交流ネットワーク（つながる仕組み）の構築
- 地域主催で銭湯プロジェクトへのクラウドファンディング

行政

- 小高交流センターの拠点機能強化と定期交流プログラムの展開
- NIKOパークと連携し、乳幼児から高齢者までを巻き込む交流企画の支援
- シニア層など情報が届きにくい対象への情報提供・周知の仕組みづくり

外部

- 大学や専門学校と連携し、高齢者向けの運動プログラムやこどもとの多世代交流ワークショップの展開
- 地域外の健康・福祉NPOの巡回講座誘致

官民連携

- 官民連携による地域交流・リフレッシュ空間の再生活用の推進



実現に向けたヒント（他地域の事例）

- 県で展開されている健康づくり促進プロジェクトで、住民が楽しみながら健康活動に取り組める。
- ウォーキングイベントや地域健康講座に参加しポイントを獲得することで、参加店舗にパスポート提示し、割引や特典を受けられる。



高知県

にぎわい施設の導入・機能強化



遊び・飲食・宿泊などの機能を備え、
人が訪れたい環境を整備する

地域住民

- 未利用地を活かした地域共用空間づくり（小さな菜園・花壇づくり、季節の飾り付けなど） *再掲
- ペットを通じた交流（ドッグラン運営協力、猫カフェ企画のサポートなど）

事業者・団体

- 飲食店や事業者によるキッチンカー出店やミニマルシェ等の企画運営、既存イベントの継続化 *再掲
- 歩きながら立ち寄れるサービス提供（食べ歩き、休憩可能スペースなど） *再掲
- 地域性を活かした工夫（例：馬要素を取り入れた商品や演出）

行政

- 小高交流センターの拠点機能強化と定期交流プログラムの展開 *再掲
- 外部コンテンツとの連携による娯楽イベントの誘致・展開

外部

- 地域外企業等による地域連携型エンタメ・文化プログラムの展開

官民連携

- 仮設イベントや短期滞在空間の官民実証 *再掲
（例：移住検討者の一時宿泊所、学生の遊び場、テーマ型アートプロジェクト等）



実現に向けたヒント（他地域の事例）

- 標高の高い山村の自然を活かし、星空観察とナイトウォークを融合した観光体験。
- ナイトウォークや星空ヨガ、焚き火体験、音楽ライブとのコラボ企画など多様な演出があり、住民がガイドや送迎も担う。



長野県阿智村

【D】こどもたちの学びと地域がつながる場をつくるには、どうしたらいいか考えよう

【学校や関連施設の活用について】

「学校や周辺施設を地域で活かすにはどうするか」～学校や周辺の施設を、地域の中でどう活かしていけるだろう？

WSでの意見を分類

こどもの居場所・滞在支援関係

【WSでのご意見の一部】

- 中学生の居場所づくり
- 学校に送迎に来る前に学生が滞在できるたまり場
- 学童を誰でも利用可能に（今の小学生たちは家々が遠く、気軽に遊びに行けない。）

**こどもたちが安心できる
居場所づくり**

こどもたちが安心して過ごせる、誰でも利用しやすい“たまり場”をつくる

公共空間の地域活用関係

【WSでのご意見の一部】

- 公共施設を地域に開放する
- 校庭や体育館を開放し住民も活用できるようにする
- 空き教室を活用して学生との交流
- 地域に開けた活用（サテライトオフィス）
- 公園や空き地を使いやすくする

**学校・公共施設等の
多目的な地域活用**

学校や公共施設などを、地域の交流・活動の場として活用する

旧小高商業高校の跡地利用関係

【WSでのご意見の一部】

- 旧小高商業高校に食・酒・café・宿泊機能を設ける
- 地域の拠点となるような、複合的な機能を有する場所にする（公園、スポーツ施設、野外フェス、買い物できる施設、図書館、カフェ、文化施設、展望台等）

旧小高商業高校の跡地利用

旧商業高校跡地を活かし、交流・にぎわいの場を創出する



こどもたちが安心できる 居場所づくり

こどもたちが安心して過ごせる、
誰でも利用しやすい“たまり場”をつくる

地域住民

- 地域ボランティアによる見守り体制（放課後の見守り隊、当番制等）
- こどもと世代を超えて交流する「昔あそびの日」等の開催

事業者・団体

- 店舗を学習スペース等として提供
- NPO・子育て支援団体との連携による居場所づくり
- スポーツ団体や文化団体によるミニ体験プログラムの定期開催

行政

- 学校や学童施設の柔軟な利用ルールの整備
- 中学生の居場所づくり（滞在、学習の場等）
- 見守り人材育成講座等の開催

外部

- 大学生や地域おこし協力隊等による学習支援や遊び

官民連携

- 既存施設を活用した滞在型居場所機能の共創（こどもたちの放課後や休日の滞在・交流スペースを設ける）



実現に向けたヒント（他地域の事例）

- 水曜日の放課後は、宿題をしたあと、「まなびコース」と「アクティブコース」に別れて活動。
- 地域のボランティアの方々による、各コースの指導及び活動支援。



京都府城陽市



学校・公共施設等の 多目的な地域活用

学校や公共施設などを、地域の
交流・活動の場として活用する

地域住民

- 空き教室等でのサロン活動や手仕事・料理教室などの自主活動の実施
- 地域ボランティアによる見守り体制（放課後の見守り隊、当番制等） *再掲

事業者・団体

- 体育館や校庭を使ったスポーツイベント等の企画や、地域の祭りや行事を校庭・体育館で開催
- サテライトオフィス（本社とは別にある働く場所）や地域の作業スペースとしての空き教室利用

行政

- 公園や公共施設の開放に関する利用ルールや予約制度の整備（時間帯・範囲・管理体制）
- 教育現場との調整（授業時間外の共用・安全確保・学生との接点づくり）

外部

- 大学やRTF、F-REI等の出張講義・公開授業、体験活動の実施
- 民間企業のサテライトオフィス実証や地域課題解決の場としての協働活用

官民連携

- 既存施設を活用した滞在型居場所機能の共創（こどもたちの放課後や休日の滞在・交流スペースを設ける） *再掲



実現に向けたヒント（他地域の事例）

- 小学校に併設された体育館・温水プールを、授業外に市民向けに有料開放（民間PFI運営）。
- 年間利用者数が4万人規模に達し、地域の健康・交流施設として機能。



東京都調布市（調和小学校）



旧小高商業高校の跡地利用

旧商業高校跡地を活かし、
交流・にぎわいの場を創出する

市では旧小高商業高校跡地（土地・建物）の利活用について、福島県と協議し、

- ・土地は福島県から市が譲渡を受ける。
- ・建物は改修に多額の費用が生じるため使用せず、福島県が解体を行う。（建物の解体完了まで約4年かかる見込み。）

ことを決定しました。

今後、土地の利活用は小高区地域協議会との意見交換や市民懇談会等を行い、市民の声を踏まえた利活用を検討する。
令和8年度中に利活用案を策定予定。

南相馬市より情報提供

【D】こどもたちの学びと地域がつながる場をつくるには、どうしたらいいか考えよう

**【こどもと地域の関わりについて】「こどもと大人が交流する場や機会をつくっていくにはどうするか」
～こどもと大人が交流できる場や機会を、どうやってつくっていけるだろう？**

WSでの意見を分類

世代間交流・文化活動関係

【WSでのご意見の一部】

- ・スポーツイベントや昔遊びを通じたふれあい
- ・こどもマーケット等の、こどもと触れ合うイベントの開催
- ・高齢者の知恵や技能（郷土料理、手仕事など、野馬追の準備）の継承
- ・アートづくり、伝統行事などの協働
- ・草刈りや運動会等の手伝い

**こどもがふれあう
交流・体験の機会づくり**

住民とこどもが、一緒に遊び
・学び・活動する機会をつくる

学び・体験交流関係

【WSでのご意見の一部】

- ・地域の仕事を知る機会をつくる
- ・習いごとのシェアスクールを立ち上げる
- ・総合教育として学生が職業人とつながる場所
- ・高校生との共創した取組
- ・他地域のこどもに“おてつだび”をさせる
- ・合宿の誘致

**地域の仕事・スキルを活かした
キャリア学習や教育支援**

地域の資源（人材・職業・スキル）を
活かして、学びの幅を広げる

見守り・子育て環境関係

【WSでのご意見の一部】

- ・こどもたちが学びながら成長できるまちで見守る子育てがしたい
- ・近所の高齢者なども進んで子育てを手伝える雰囲気復活させたい

**子育ての支え合い・見守りの
文化づくり**

地域全体でこどもを育てる
雰囲気や仕組みづくり



こどもがふれあう 交流・体験の機会づくり

住民とこどもが、一緒に遊び
・学び・活動する機会をつくる

地域住民

- 学校行事（運動会・草刈り・清掃活動など）への協力
- 昔遊び・郷土料理・手仕事の体験会の開催

事業者・団体

- イベントの企画・運営支援（店舗協力、会場提供）
- 野馬追や地域行事へのこどもの参加機会づくり
- アート団体やNPOとの協働プログラム

行政

- 住民が教育プログラムや地域学習に携われるような仕組みづくり
- 公共施設や学校施設の利活用ルールの整備
- 大人の生涯学習のシステム環境づくり

外部

- 学生やアーティストによる地域とこどもの協働プロジェクトの企画・実施
- 他地域のこどもや若者を巻き込んだ交流イベントの企画・実施

官民連携

- 地域・企業・学校連携による体験イベントの定期開催（例：こどもマーケット）



実現に向けたヒント（他地域の事例）

- 毎週毎月第三金曜日に、子育てコミュニティ団体が子ども食堂を運営。
- 地域の大人が昔遊びや料理教室を実施し、ゆるやかな見守りと交流の居場所が形成されている。



福島県双葉郡富岡町



地域の仕事・スキルを活かした キャリア学習や教育支援

地域の資源（人材・職業・スキル）
を活かして、学びの幅を広げる

地域住民

- 習いごとの「先生」になり得る住民のリスト化とマッチング

事業者・団体

- 学生、こどもとのコラボ商品の開発、販売
- 地元企業による職業講話や現場見学
- 習いごとのシェアスクールへの場所・備品提供

行政

- こども向け・学校向けに地域の仕事のリスト化
- 学校と地域の接続役（コーディネーター）の配置
- 宿泊・体験受け入れ体制の基盤づくり
- 大学・教育団体と連携したキャリア教育プログラムの立案

外部

- 住民・団体・行政が取り組む外との接点づくり（「おてつだび」等）
- 大学生や専門家による地域文化体験の提供

官民連携

- 地域・企業・学校連携による体験イベントの定期開催（例：こどもマーケット）*再掲



実現に向けたヒント（他地域の事例）

- 高校の観光ビジネス科にて、地元企業や商工会議所と連携し、観光ガイドや商品開発に取り組む実践的な教育カリキュラムを構築。
- 生徒たちは、「自然を満喫ツアー」（徳島県美波町 椿谷自然体験村でのジップラインやビザ作り体験など）を企画・実施。

徳島県（県立徳島商業高校）



子育ての支え合い・見守りの 文化づくり

地域全体でこどもを育てる
雰囲気や仕組みづくり

地域住民

- 通学路や公園などでの見守り活動（シフト制・ゆるやかな参加型）
- 親子や住民の交流、子育ての情報共有や支援体制の強化

事業者・団体

- こどもや子育て家庭が安心して利用できる店舗・事業所の見える化（例：「こども歓迎」の掲示）
- 地域の民間団体等による子育て相談や体験教室の実施

行政

- 見守り活動への支援（保険加入、活動費補助、研修など）
- 子育て支援の担い手（多世代）の登録・活用制度

外部

- 小高に関わりのある大学生による勉強・遊びのサポート
- 専門家による子育て相談や見守りに関する講座の開催

官民連携

- 地域・企業・行政連携による見守りネットワーク強化



実現に向けたヒント（他地域の事例）

- IoT技術を活用した「地域見守りネットワーク」で、小学生に見守り端末を配布し、商店や企業を見守りポイントに指定。
- これにより、通学路などの安全見守りと地域間協力が実践されている。



福岡県柏屋町

【A】安心して歩き、楽しくめぐれる空間をどうつくるか考えよう

【歩きやすさ・安心について】子どもも高齢者も安心して歩けるまちにするには？

【案内・回遊について】小高の魅力をめぐる案内と回遊の仕組みをつくるには？

WSでの意見を分類

安全・安心関係

【WSでのご意見の一部】

- 歩道を整備し、子どもやご年配の方が安心安全に歩けるようにする
- 車と共存ではなく、歩行者専用区間があるとよい
- 子どもが歩いて学校に行ける地域にしていきたい
- 高校生の通学路に街灯が少なく暗い
- 通学の見守りを地域住民の方ができるとよい

安心・安全な 歩行環境の整備

通りの環境や設備を整えて、誰もが安心して歩ける空間にする

景観・快適関係

【WSでのご意見の一部】

- まちなかは歩いて回れることが魅力
- 大通りと妙見通りの十字路は回遊の肝
- 総合的な公園の整備
- 無電中化！ない場合、山並みもきれい
- 一方通行と駅前大通りの歩行者天国と市を立てる

歩きたくなる まちなか・景観整備

景観や休憩スポットを工夫して、歩く楽しさを感じられる空間にする

案内・回遊関係

【WSでのご意見の一部】

- 案内板のデザインの統一
- 浜街道トレイルに道標を！！設置
- 小高区内を巡ることができる回遊型のサイクリングロードを整備してはどうか
- 文化財や史跡を回廊できるようなルートの設定

回遊を支える 案内・ルートづくり

案内板や回遊ルートを整備し、気軽にまちを巡れるようにする

安心・安全な 歩行環境の整備



通りの環境や設備を整えて、
誰もが安心して歩ける空間にする

地域住民

- 通学時の見守り活動
- 地域での花いっぱい運動、通学路の安全点検
- 自主的な清掃活動（草刈り・ゴミ拾い等） *再掲

事業者・団体

- 店舗前の歩道・植栽の手入れや清掃活動（歩行空間の快適性アップ）
- バリアフリー化や段差解消の協力

行政

- こどもや高齢者にとって安心・安全な歩道整備（拡幅、街灯設置、バリアフリー対応）
- 警察との協議による交通規制（歩行者天国、一方通行化など）
- 草刈りロボット導入に向けた制度支援や予算化

外部

- 外部企業との協働による歩道整備・安全施設の寄附やCSR活動

官民連携

- 官民連携による賑わいイベント運営推進（例：歩行者天国・定期市等の回遊性を高めるもの等） *再掲

ヒント！ 実現に向けたヒント（他地域の事例）

- 「こどもファースト」を推進し、こども達が安心して通学できるよう「岐阜市通学路交通安全プログラム」に基づき、きめ細やかな通学路の安全対策を実施。



岐阜県岐阜市

歩きたくなる まちなか・景観整備



景観や休憩スポットを工夫して、
歩く楽しさを感じられる空間にする

地域住民

- 季節イベントや食べ歩き企画への住民参加 *再掲
- 地域の魅力を伝える案内人・体験ガイドとしての住民参画 *再掲

事業者・団体

- まちあるき（散策）マップの更新とデジタル対応 *再掲
- 店舗同士の回遊促進イベント（スタンプラリー、テーマ散策など） *再掲
- 歩きながら立ち寄れるサービス提供（食べ歩き、休憩可能スペースなど） *再掲

行政

- 無電柱化、歩道整備、サイン整備などの物理的な安全対策と道案内機能の向上 *再掲
- 通りの整備（ベンチ、街路樹、遊具や憩いの広場、日差し・寒さ対策となる工夫、欄干修復など）

外部

- 専門家による景観デザインの提案・技術支援 *再掲
- 専門家や学生と連携した通り空間の調査 *再掲

官民連携

- ウォーカブル（歩いて楽しいまち）空間の社会実験
- 季節・時間に応じた演出の仕組みづくり（イルミネーション、ライトアップ、花壇の季節替え）

ヒント！ 実現に向けたヒント（他地域の事例）

- 道路上や駐車帯等の空間に、机・椅子などのアメニティの他、植物が植えられたプランター等を配置したパークレットを設置。
- 人が溜まったり、休憩したり、飲食したりできるような魅力的な空間へ。



宮城県仙台市（定禅寺通り）

回遊を支える 案内・ルートづくり



案内板や回遊ルートを整備し、
気軽にまちを巡れるようにする

地域住民

- 小高川土手沿いの桜並木や散歩道の保全・美化
- 既存公園の維持管理
- まちあるき（散策）マップづくりへの協力

事業者・団体

- 小高観光ホームページの充実
- まちあるき（散策）マップの更新とデジタル対応 *再掲
- サイクリングロード・観光ルートの企画、運営サポート

行政

- 案内板のデザイン統一・設置・モニター化
- サイクリングロード・観光ルートの設定・標識の整備
- 文化財や史跡周辺の道路整備
- ひと休みできる場の整備（足湯やベンチ、東屋、日陰スペースなど）

外部

- 大学や専門家による史跡や文化財を活かしたルート監修・調査
- アートやデジタル技術を活用した「ゲーム・学びの要素」導入

官民連携

- 地域資源を活かした周遊型観光プランづくり

ヒント！ 実現に向けたヒント（他地域の事例）

- ログマークも含めたデザイン統一や設置位置の検討。
- 看板の見やすさ・案内性を向上させるための市民参加も伴っており、案内板を通じて“道”としての回遊性を強めている。



滋賀県大津市・草津市

【B】みんなが気軽につながる居場所と関係性づくりを考えよう

【多様な人々がつながる交流と居場所づくり】 【地域コミュニティの再構築・意識改革】
みんなが気軽につながりあえる「居場所」と「関係性」をつくるには？

WSでの意見を分類

居場所・拠点関係関係

【WSでのご意見の一部】

- まちなかに集会場、公民館など（利用しやすい会場）がないため一カ所でも設置
- 交流センター等の既存施設の利活用を促進する
- 誰もが気軽に立ち寄れる草花公園、貸し農園、コピスガーデン
- ゴミ出しの日に将棋や囲碁、ボードゲームをやる。ミニマルシェ的なものも

多世代交流関係

【WSでのご意見の一部】

- 高齢世代と若年世代の交流推進
- 市営住宅居住者を地域に参加していくように交流推進を図りたい
- 新住民と現住民との交流運動会、スポーツ大会等（目的を持ったイベント）
- 食等、世代を超えて伝えるイベント
- 既存の活動に参加してもらう
- まちゼミ（まちなかゼミ）ものづくり

コミュニティ再生関係

【WSでのご意見の一部】

- 地域コミュニティの再構築。高齢者を監視するのではなく、地域で関わり合いながら生活できるような町にしたい
- 顔の見える関係のまち
- 行政区単位じゃない集まり方
- 鹿島、原町との交流促進（小高でつくられたものを移動販売することから？）
- オンラインで関係人口の増加を図る

誰もが集える
居場所・交流拠点づくり

公共施設や公園を活用し、
誰もが立ち寄れる交流の場をつくる

多世代・新旧住民の
交流促進

スポーツやイベントを通じて、多世代・
新旧住民がつながる機会を広げる

地域のつながりと
コミュニティ意識の再生

顔の見える関係や新しい集まり方を育み、
地域のつながりを深める



誰もが集える 居場所・交流拠点づくり

公共施設や公園を活用し、
誰もが立ち寄れる交流の場をつくる

地域住民

- 交流センター等を使った活動の充実
- 多世代が集える場や活動の工夫（例：ゴミ出しの日の囲碁・将棋やミニマルシェをやるなど）

事業者・団体

- 交流センター等の既存施設の運営・管理
- 交流センター等でのイベントの開催・充実化
- 歩きながら立ち寄れるサービス提供（食べ歩き、休憩可能スペースなど）*再掲

行政

- 公園や公共施設の開放に関する利用ルールや予約制度の整備（時間帯・範囲・管理体制）*再掲
- 既存施設の機能改善
- 交流拠点・滞在型体験施設整備（例：まちなか集会所や貸農園、花や緑を活かしたコピスガーデン、出店スペース）

外部

- 地域拠点企画・デザイン支援（例：公園や貸農園、交流センターの利活用に関する企画・運営ノウハウ提供）
- 出張型サービスの持ち込み（飲食・文化活動など）

官民連携

- 交流拠点の運営協働（官民連携で施設管理やイベント企画を行う体制づくり）
- 子育て世代・高齢世代融合による既存活動の多世代化と交流機会拡大



実現に向けたヒント（他地域の事例）

- 「笑ふるタウンならば」内にある交流施設。
- 笑ふるタウンの買い物客がふらっと立ち寄り、ビジネスマンが2階のワークスペースで仕事をしたり、放課後は小学生が集まってゲームを楽しんだりする。



福島県双葉郡楡葉町



多世代・新旧住民の交流促進

スポーツやイベントを通じて、
多世代・新旧住民がつながる機会を広げる

地域住民

- 多世代交流イベント企画・参加（町内運動会、高齢者サロン、ご飯会、ものづくり体験、Eスポーツなど）
- 交流会や地域活動への参加呼びかけ
- 集団登校見守り・ファミリーサポートによる世代間の関わり

事業者・団体

- 多世代交流イベント企画・参加 *再掲
- 趣味や特技を活かした交流の場づくり（例：馬をきっかけにしたつながり、ものづくりや地域資源を生かした活動の提案）

行政

- 場所や機会の提供
- 地域行事との運動支援（学校行事や部活動、地域イベントにおける住民参加を後押し）
- 地域産業を活かした学びの場・人材育成の機会づくりの検討

外部

- 移住者・関係人口として参加
- 学生や企業による交流プログラムの実施（例：大学生の地域実習やゼミ活動、企業CSR活動）

官民連携

- 世代・地域を横断した仕組みづくり（区長会・市役所・住民の共催による交流イベント開催）
- 子育て世代・高齢世代融合による既存活動の多世代化と交流機会拡大 *再掲



実現に向けたヒント（他地域の事例）

- 町内会が主体となりつつ、行政が後方支援をする形で、複数町内会合同の大運動会を実施。
- こどもから高齢者まで約300人の地域住民が参加し、町内会対抗縄跳び、パン食いなどを実施。



札幌市北区



地域のつながりと コミュニティ意識の再生

顔の見える関係や新しい集まり方を
育み、地域のつながりを深める

地域住民

- 日常的な挨拶、声掛け
- 子育てや高齢者支援など、住民同士の助け合い
- 趣味や関心ごとでの交流（例：地域文化にふれる交流）

事業者・団体

- 多世代交流イベント企画・参加 *再掲
- 趣味や特技を活かした交流の場づくり（例：馬をきっかけにしたつながり、ものづくりや地域資源を生かした活動の提案）*再掲

行政

- 住民の交流やコミュニティに関するニーズ調査
- 行政区に偏らない形での住民のつながり支援
- 議員・職員による交流の場への参加・対話
- 原町、鹿島との交流促進

外部

- オンラインを活用した関係人口拡大・地域関わり
- 学生や企業による交流プログラムの実施（例：大学生の地域実習やゼミ活動、企業CSR活動）*再掲

官民連携

- 顔の見える交流の場の設置と住民・行政・団体の協働支援
- 世代・地域を横断した仕組みづくり（区長会・市役所・住民の共催による交流イベント開催）*再掲



実現に向けたヒント（他地域の事例）

- 町内会加入や日常的な声かけの重要性を啓発するパンフレットや情報発信を行う。
- 地域行事参加を促す具体的な働きかけや、町内会との連携を通じて“顔の見える関係”を再生している。

京都府京都市

【C】小高の歴史・文化を残し、活かすにはどうすればいいか考えよう

【歴史・文化の保存と継承】 小高の歴史や文化を守り、受け継いでいくには？

WSでの意見を分類

歴史・文化資源関係

【WSでのご意見の一部】

- 小高城跡、お神楽等の神事、伝統行事の継承
- 立派な家が多く残されているので保全と活用の推進をしていきたい
- 国道6号からの案内板整備
- 浦尻貝塚縄文の丘公園を学術的でなく親しみやすい公園へ（子供が遊べる）
- 昔のように川で遊べる場所にしたい

歴史資源・文化財の保全と活用

神社や史跡、伝統行事を守りながら、
地域の魅力として活かす

記録・伝承関係

【WSでのご意見の一部】

- お店で働いている人を撮影（店舗と一緒に）し、小高を記録していきたい
- 聞き語りを通じた地域の記憶と文化を継承する
- 小高の民話を集めて一冊の本を作る
- 小高の歴史を交流センターに掲載
- 養蚕文化・神事・地名を活かし、地域アイデンティティを創出する

記録・伝承による地域の記憶継承

記録や語りを通じて、小高の歩みや文化を
次世代に伝える

歴史資源・文化財の保全と活用



神社や史跡、伝統行事を守りながら、地域の魅力として活かす

地域住民

- 伝統行事への参加・運営サポート
- 農業風景、小高川の水辺空間など地域風景の維持・活用
- 担い手・体験希望者の集約活動
- 歴史資料調査・保存協力

事業者・団体

- 歴史文化ワークショップ・イベント企画・運営（講座・体験教室等）
- 観光・体験プログラム企画・運営（農業、川遊び体験など）
- 神社・寺院での季節行事や祭礼の企画・運営支援
- 歴史文化観光マップ・パンフレット等の更新・作製

行政

- 案内板・案内標識整備（国道沿い・歴史遺産周辺）
- 公園・公共施設等整備・保全（浦尻貝塚縄文の丘公園など）
- 文化財・歴史建造物保存・活用支援（補助金・助成制度）
- 歴史文化観光マップ・パンフレット等の更新・作製 ***再掲**

外部

- 歴史・文化保存の専門家や研究者による助言・指導
- 史跡や文化財の学術調査、保存・活用に関する技術支援

官民連携

- 伝統文化を体験できる観光・交流プログラムの共催（例：住民と事業者による体験型企画の運営）
- 農村景観や自然環境と連動した歴史資源の再生活動



実現に向けたヒント（他地域の事例）

- 世界遺産「日光の社寺」を核に、**市民ボランティアガイドや地域団体が活躍。**
- **案内板整備や体験型プログラムを導入。**



栃木県日光市

記録・伝承による地域の記憶継承



記録や語りを通じて、小高の歩みや文化を次世代に伝える

地域住民

- 地域の記憶の自発的記録（店舗や暮らしの様子の写真・動画）
- 聞き語りによる地域文化の継承・仕組みづくり
- 地域の魅力を伝える案内人・体験ガイドとしての住民参画 ***再掲**

事業者・団体

- 地域の歴史文化などを事業として継承・記録（小高町歴史郷土資料室等）
- 歴史文化ワークショップ・イベント企画・運営（講座・体験教室等） ***再掲**

行政

- 地域史・文化資料の体系的アーカイブ整備
- 学校や地域学習での地域史・文化継承カリキュラムの提供
- 記録・伝承活動や人材育成に対する助成金や企画支援

外部

- 研究者・学生による地域史・民俗の調査・アーカイブ支援
- ワークショップやボランティアによる聞き取り・撮影支援
- デジタル記録やSNSを活用した情報発信

官民連携

- 伝承・記録活動を含む文化事業の共同企画
- 地域デジタルアーカイブの共同構築・公開



実現に向けたヒント（他地域の事例）

- 「奥会津昭和からむし織」として、国の伝統的工芸品に指定されており、手織り技術の後継者育成を含む工芸技術保存の取組。
- **移住・定住者に地域の伝統文化を体験・参加してもらうことで、地域コミットメント強化と地域の持続につなげている。**



福島県昭和村

【C】小高の歴史・文化を残し、活かすにはどうすればいいか考えよう

【歴史・文化資源を活かした場づくり・発信】 小高の歴史や文化を活かした発信や場づくりを進めるには？

WSでの意見を分類

拠点整備関係

【WSでのご意見の一部】

- 歴史博物館や産業の歴史を伝える場所の整備
- 小高神社とその周辺のブランディング
- 村上城跡に海浜公園整備
- 大悲山周辺の整備
- 貝塚とても気持ち良い所であるため、整備するとしたらキャンプ場がほしい（学習の場として）

歴史・文化を伝える拠点づくり

史跡や文化財を活かし、
学びと交流の拠点にする

発信・体験関係

【WSでのご意見の一部】

- 石仏を直接見ることができ、説明を聞けるツアーを開催！（文化財課協力）
- 大悲山の歴史的価値をもっと宣伝すべき
- SNSによる情報の発信
- 防災無線の活用（例：学校の校歌を流す）
- 観光地をつなぐスタンプラリー、シェアサイクル

魅力発信・体験の仕組みづくり

体験や交流、情報発信を通じて
魅力を広く伝える

歴史・文化を伝える拠点づくり



史跡や文化財を活かし、
学びと交流の拠点にする

地域住民

- 地域の史跡や神社の維持管理、清掃・美化活動への参加
- 展示物の制作・運営への協力、展示品の解説や体験プログラムのサポート

事業者・団体

- 地域施設を活用した常設展示や企画展の運営協力
- 拠点施設での体験イベント・ワークショップの定期開催
- 歴史・文化をテーマにした拠点施設内のショップやサービス展開

行政

- 歴史・文化、自然を体感できる展示・休憩・体験スペースの整備・提供
- 案内板・案内標識整備（国道沿い・歴史遺産周辺） *再掲
- 施設の維持管理、アクセス整備

外部

- 歴史資料の研究・展示協力
- 観光ガイドやツアーの企画・運営
- 学生やボランティアによる体験型イベントの参加

官民連携

- 住民・行政・事業者が協働する拠点施設・史跡の管理体制づくり
- 拠点を舞台とした学習型・体験型プログラムの共同企画・継続運営



実現に向けたヒント（他地域の事例）

- 展示室・収蔵庫があるほか、「古墳ふれあいひろば」「親子ひろば」など屋外休憩・交流スペースを併設。
- 展示／考古資料の常設展示があり、親子で楽しめる体験的要素を含む施設。



宮城県名取市

魅力発信・体験の仕組みづくり



体験や交流、情報発信を通じて
魅力を広く伝える

地域住民

- 地域の史跡や文化財を案内する体験活動への参加
- 地域の魅力を伝える案内人・体験ガイドとしての住民参画 *再掲

事業者・団体

- 拠点施設での体験イベント・ワークショップの定期開催 *再掲
- 住民や外部団体と連携したツアーや体験商品の造成
- 飲食・宿泊・小売と連動した魅力発信や体験機会の拡大

行政

- 歴史・文化、自然を体感できる展示・休憩・体験スペースの整備・提供 *再掲
- 防災無線や公式サイトを活用した地域情報発信
- 多言語対応やオンライン発信を通じた広域的な情報発信

外部

- SNSやオンラインメディアを通じた地域魅力の発信
- 観光・体験プログラムへの外部参加や協力

官民連携

- 学芸員・地域団体・事業者・行政が協働する体験・交流プログラムの継続実施
- スタンプラリーやシェアサイクルをはじめとする回遊型コンテンツの共同運営



実現に向けたヒント（他地域の事例）

- 「おぢかアイランドツーリズム（「小値賀島」で活動する特定非営利活動法人）」は、観光を通して小値賀の魅力伝えるため、小値賀のワンストップ窓口として、観光のご案内から、自然体験、民泊、古民家事業など、旅を総合的にプロデュース。



長崎県小値賀町

【D】小高での住まいと暮らしをより安心・快適にするにはどうすればいいか考えよう

【住まいの環境】・【暮らしのつながり】 住みやすさを高める住環境や、支え合いの仕組みをどうつくっていく？

WSでの意見を分類

住環境関係

【WSでのご意見の一部】

- 世代縦断的移住、定住受入の推進
- 移住者が空き家に住みやすくするための仕組みをつくる
- まちなかに住宅が増加するとよい
- 公営住宅をつくる（浪江町で働く人をターゲットに）
- 店舗付き住宅の新築を空き地に展開できるように市、県、国の助成をしてほしい
- 安く住める若者向けシェアハウスを各行政区に整備する。入居者は行政区の運営に関わる

**住まい・生活の
多様な受け皿づくり**
空き家活用や多様な住宅整備で
安心して住める環境にする

支え合い関係

【WSでのご意見の一部】

- 地域社会圏主義という考え方を基に考えると小高にも合いそう
- ただのアパートが増えると地域内の連帯がなくなっていく。景観的にもマイナス
- 小さな範囲で人が交流できる場をつくる？（シェアできる場所とか、自主的な活動ができる場など）
- 子育て環境の充実（住民がベビーシッターしたりする）
- 若者（移住者）－老人（住民）1対1サポート

**暮らしのつながりと
支え合いの仕組みづくり**
世代や地域を超えた交流と支え合いで
暮らしを豊かにする

住まい・生活の多様な受け皿づくり



空き家活用や多様な住宅整備で
安心して住める環境にする

地域住民

- 空き家の情報提供（行政区から見繕ってもらう）
- 空き家の貸出・売却の動機づくり・参加

事業者・団体

- 小高らしい住宅や住まい方の発見・発信（パンフレット作成など）
- 空き家利活用の事例発信・見学会の開催（改修した住宅や店舗付き住宅を公開）

行政

- 空き地や既存住宅を活用した、住みやすい住宅（店舗付き住宅など）の整備や環境づくり
- 移住者や子育て世帯など幅広い世代に対応した住宅提供・調整
- 空き家活用や移住支援に関する制度・仕組みの整備・活用

外部

- 空き家改修・リノベーションの推進
- 空き家活用や住宅整備に関わる提案・アイデア提供
- シェアハウスの運営支援や企画参加

官民連携

- 空き家活用・移住支援の仕組みづくり
- 店舗付き住宅やシェアハウス整備のための助成・運営支援の共同検討



実現に向けたヒント（他地域の事例）

- 空き家や遊休不動産を活用した「morinekiプロジェクト」を進めている。このプロジェクトでは、借上げ公営住宅・民間賃貸住宅の住宅棟、生活利便施設などを整備し、地域住民と移住者が共に生活し、働き、楽しむことができる環境を提供している。



大阪府大東市

暮らしのつながりと支え合いの仕組みづくり



世代や地域を超えた交流と支え合いで
暮らしを豊かにする

地域住民

- 移住者歓迎会や町内会の復活など、交流や顔の見えるつながりづくり
- 地域の美化・清掃・緑化・花植えなどの共同作業への参加
- 子育てや高齢者支援など、住民同士の助け合い *再掲

事業者・団体

- 自社店舗の一部または空きスペースを住民向けの交流スペースとして開放
- 地域活動への協力・支援（道具や資金の提供、ボランティア参加）

行政

- 安心して暮らせる住宅環境の支援（住宅の耐震・バリアフリー化、アスベスト調査等）
- 地域活動の参加・交流の後押し（交流イベント等の企画・サポート）

外部

- 学生による地域学習・ワークショップ（例：大学生が地域資源のマップ作りを行い、住民と意見交換）
- 助成金やクラウドファンディングを通じて地域活動を支援

官民連携

- 住民・事業者・行政が連携した地域交流や共同作業の場づくり
- 移住者や高齢者支援を含む生活支援ネットワークの形成



実現に向けたヒント（他地域の事例）

- 移住者の受け入れを進めるため、町内会と連携した取り組みが行われている。
- 具体的には、移住者が地域行事や共同作業に積極的に参加できるように、町内会が歓迎する姿勢を示し、移住者との交流を深めている。

新潟県上越市

【E】小高での挑戦を支える仕組みや協働のあり方を考えよう

【頑張る個人や事業者の支援・応援】 地域で挑戦する人・事業者をどう応援する？

WSでの意見を分類

人材育成・チャレンジ支援関係

【WSでのご意見の一部】

- 人づくりが大事
- デジタル人材育成プログラムの実施
- 若手からリーダーを選出していく、育成する
- 起業チャレンジの推進
- 住民が独自で行っている事業のバックアップをしてほしい
- 現時点で取り組まれている方の支援、それに+αして何ができるかを考える

挑戦する人の育成と支援

若者や事業者の挑戦を応援し、
地域に根づく活動を広げる

情報・交流・資源循環の仕組み関係

【WSでのご意見の一部】

- 挑戦者や事業者の困りごとを聞く機会
- シニア層に情報を確実に届ける仕組みづくり
- 住民の方々へのPR
- 主体的じゃない人にどう届けるか？
- 「みなみそうまチャンネル」の有効活用
- 横のつながり（個々ではなく）+住民に聞いてもらう
- 町外でお金をかせげる仕組みの支援

情報発信とつながりの仕組みづくり

情報発信や交流の場を整え、
地域の資源が循環する仕組みをつくる

挑戦する人の育成と支援



若者や事業者の挑戦を応援し、
地域に根づく活動を広げる

地域住民

- 若者や担い手が役割を持ち、挑戦を試せる地域活動の場づくり
- 地域内で取り組んでいる事業にボランティア参加・応援

事業者・団体

- 自主的にチャレンジする事業者・活動者へのノウハウ提供や相互支援
- 挑戦の場としてのアルバイト・研修機会の提供

行政

- 起業チャレンジ支援（資金助成、相談窓口、メンター派遣等）
- 挑戦者の継続支援（人材マッチング、広報支援等）
- デジタル人材育成支援（プログラム実施・補助等）

外部

- 起業やチャレンジに対する外部専門家の伴走支援
- 地域で挑戦する人々を広域に発信・ネットワーク化

官民連携

- 外部人材（大学生や専門家）と住民・事業者をつなぐ学び・実践の機会づくり
- 地域発チャレンジへの資金・技術・人材支援の仕組み構築



実現に向けたヒント（他地域の事例）

- 長野県は「日本一創業しやすい県づくり」を目指し、松本市と長野市に「信州スタートアップステーション」を設置。
- 創業希望者が専門家に相談できる場を提供。また、女性専用の相談窓口や、月2回のスタートアップセミナー・ワークショップなど、多様な支援が行われている。



長野県松本市、長野市など

情報発信とつながりの仕組みづくり



情報発信や交流の場を整え、
地域の資源が循環する仕組みをつくる

地域住民

- 地域商店とのつながりづくり（話しかけ、利用促進など）*再掲
- 市民ファンドの立ち上げ（市民からの資金募集による挑戦者支援）

事業者・団体

- 自身の活動や困りごとを住民に伝える機会の提供（プレゼンやイベント、サロン・交流会等）
- 他事業者との交流・連携の促進（横のつながり）
- 町外販路を開拓するモデル事業の展開（例：EC、移動販売、宅配サービス）

行政

- 情報発信基盤（SNS、チラシ、地域チャンネル）の整備・活用
- 住民・事業者の交流や情報共有を支援する仕組みづくり
- 町外販路開拓支援（例：EC、移動販売、宅配サービス）

外部

- 情報マッチングシステムやデジタルプラットフォームの構築支援
- 移住者や外部人材との交流機会のコーディネート
- ECやデジタル販路拡大支援、外部資金の呼び込み

官民連携

- 地域の困りごとと解決できる人材をつなぐ仕組みづくり
- シニア層に情報を届ける仕組みづくり



実現に向けたヒント（他地域の事例）

- 旧大野小学校の校舎を再利用し、コワーキングスペースや多目的スペースを備え、住民や事業者が自由に交流できる場を提供。
- 住民や事業者が自身の活動や困りごとを伝える交流会などが定期的に開催され、情報発信とつながりの促進が図られている。



福島県双葉郡大熊町

【E】小高での挑戦を支える仕組みや協働のあり方を考えよう

【まちづくり全般における官民連携の仕組み・体制づくり】 地域と行政と一緒にまちづくりを進める仕組みをどうつくる？

WSでの意見を分類

組織・仕組み関係

【WSでのご意見の一部】

- まちづくりを総括する組織の立ち上げ
- 市民協働組合のような一体となって地域を動かす仕組みが必要
- まちづくりに意識の高い人がゆるやかにつながる体制
 - ・ 頑張る個人の連携促進
 - ・ やりたい人の応援
 - ・ 行政との対話機能
- 施設同士を結び付ける仕組みづくり

官民一体で支える
組織・仕組みづくり組織や仕組みを整え、住民と行政が
継続的に連携できる体制をつくる

つながり・交流関係

【WSでのご意見の一部】

- 市職員は、地域を知るためにもっと地域に出ていく必要があると思う
- 区役所の権限や機能を地域密着型に転向し、まちを活性化していく
- 役場のムダな仕事を減らしてあげる→余裕をつくる
- 住民、外部の人が合同参加する「小高区でできるソーシャルビジネス（社会起業）」を考えるWS

住民・事業者・行政の
つながり強化日常の関わりや交流を増やし、住民と
行政が互いを理解し合える関係をつくる

官民一体で支える組織・仕組みづくり



組織や仕組みを整え、住民と行政が
継続的に連携できる体制をつくる

地域住民

- 美化活動（草刈りなど）の体制整備・運営
- まちづくりに意欲的な住民同士のゆるやかなネットワーク形成
- 行政区とのマッチングによる地域活動の推進

事業者・団体

- 住民・行政との連携による地域活動・イベント共催（協働体制の強化）
- 地域活動・交流拠点の活用・運営支援（施設・拠点を活用し、住民・事業者・行政が協働できる場をつくる）

行政

- 地域活動・協働の調整・支援
- 住民との定期的な会合・対話の場設定（官民連携を継続的に維持するための意見交換・意思疎通の場づくり）
- 地域課題・活動情報の収集・発信支援（住民・事業者の取り組みを整理し、必要な支援や連携につなげる）

外部

- ふるさと納税などを活用した地域活動への資金支援
- 外部知見やノウハウの導入支援

官民連携

- 垣根をなくした住民・民間・行政の連携体制づくり（例：まちづくり総括組織）
- 拠点・施設をつなぐ地域活動・交流のハブ化



実現に向けたヒント（他地域の事例）

- 官民連携で「まちづくり会社（オガールプラザ）」を設立し、行政・事業者・住民が一体となって公共施設や商業施設を整備。
- 拠点をつなぐ仕組みづくりや、地域活動の持続的運営体制づくりに成功。



岩手県紫波町

住民・事業者・行政のつながり強化



日常の関わりや交流を増やし、
住民と行政が互いを理解し合える関係をつくる

地域住民

- 若者や担い手が役割を持ち、挑戦を試せる地域活動の場づくり *再掲
- 地域内で取り組んでいる事業にボランティア参加・応援 *再掲

事業者・団体

- 自主的にチャレンジする事業者・活動者へのノウハウ提供や相互支援 *再掲
- 地域資源や施設を活用したイベント等の企画・運営（官民連携や交流機会の拡充）

行政

- 職員の地域理解・情報収集の推進（例：職員の月1回の外出、区担当職員のドラフト制など）
- 地域活動支援の余裕確保（DX推進等）
- 地域リーダーの育成・連携推進

外部

- 住民・行政との合同起業・課題解決参画
- 外部人材やノウハウの提供、地域プロジェクトへの参画

官民連携

- 垣根をなくした住民・民間・行政の連携体制づくり（例：まちづくり総括組織） *再掲
- 拠点・施設をつなぐ地域活動・交流のハブ化 *再掲



実現に向けたヒント（他地域の事例）

- 市職員が、地域課題やニーズを把握し、方策を地域の方と共に検討し、提案や要望を市担当課等へ共有するパイプ役。
- 自治区やコミュニティが実施するイベントなどへ参加し、運営のサポートなどを行う。



千葉県習志野市

WS参加者への「小高区まちづくりプラン（素案）」に対する意見聴取の実施結果について（ご意見一覧）

*ご意見につきましては、項目ごとに整理し、適宜要約し掲載しております。

基本方針	<ul style="list-style-type: none"> 基本方針がどの地域にも当てはまる一般的な内容に見えるため、小高ならではの特色や独自性が伝わる表現にすると良い。
将来構想図	<ul style="list-style-type: none"> 歴史・文化や環境などの記載に加え、現役世代にとって魅力となる将来性のある構想も盛り込まれるとよい。例えば、企業誘致や移住者による新規産業などの今後を見据えた取り組みに期待感を示すことがよいのでは。
テーマ別の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 交流センターについて、自主イベントの活用に加え、住民による運営・経営の検討も盛り込んでどうか。
短期的なプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> 「まちなか回遊とにぎわいづくり」について、これまでの実施内容と効果を検証し、住民ニーズを確認したうえで進めるべきではないか。 「多世代交流」について、世代間の価値観の違いがあるため、共通のツールや有効な手段を明確にしてテーマを練る必要がある。 関係団体の意思疎通が十分か疑問で、やや強引に進めている点が気になる。
プロジェクトの推進に向けて	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト推進の記述が抽象的でわかりにくいいため、理解しやすいプロセスを示すなど、進め方をイメージしやすくなるように改善するとよい。
全般	<ul style="list-style-type: none"> ワークショップでは参加者が主に年配層だったため、意見が過去の経験に基づく内容に偏った。過去を尊重しつつも、未来志向の意見がもっと反映されていれば、現役世代にも響く前向きな内容になったのではないか。 テーマが並列的で方向性や優先順位が不明確なため、理想論に終わる懸念がある。実現に向けては、まちづくり会社のような専門性を持つ司令塔組織の整備が重要であり、その必要性の記載があるとよい。 小高産業技術高校は、通学する多くの学生によって平日の街中ににぎわいを生み出しており、地域にとって重要な存在である。しかし定員割れが続くと学校がなくなる可能性があり、小高区の衰退につながるため、同校に通いたいと思う子どもを増やす取り組みが不可欠。そのため、学生の声を聞き、スケートボード場設置など、子どもに魅力のある施設や新しい価値づくりを進める必要があると以前から考えている。 旧小高商業高校跡地の利活用について、WSで出された意見を踏まえ、イメージ図（確定したものではないと但し書き付き）を添付すると良いと思う。 ワークショップでは興味深い意見が多く出されており、今後、それらを具体化するための議論がさらに深まることを期待する。